

IIM

〔月刊〕

Journal of
Image &
Information
Management

JIIMA

Case Study

国立国会図書館デジタル化データを活用した プリント・オンデマンド出版

レポート

JIIMA

米国業界視察研修に参加して

座談会

米国業界視察研修を終えて

名門大学・世界的情報企業・最先端医療 の現場からNYのいまを探る

現代の文書管理を法制的視点から掘り下げる

シリーズ最終回 スポーツを科学する

統合文書管理規格 Part3

2014

SEPTEMBER

9

Canon

必要な情報を、 手軽にデジタル化。

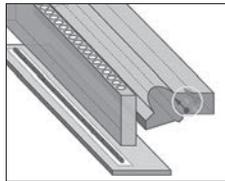
情報のデジタル化を加速する。 時代が求める、ドキュメントスキャナーテクノロジー。

imageFORMULA
DR-M140



コンパクトで省エネ、CMOSコンタクトイメージセンサー。

一般的なスキャナーが縮小光学系のセンサーを使用しているのに対し、キヤノンのドキュメントスキャナーはより進化したCMOSコンタクトイメージセンサー(CIS:等倍光学系センサー)を採用。センサー上に多数配列されたセルフフォーカスレンズにより、周辺部でも歪みの少ない高品位でシャープな画像再現と文字の可読性の向上を実現しました。また、原稿からの反射光が直接センサーに届くことでさらなる小型・軽量化が進み、コンパクトで機能的なデザインが可能となりました。光路が短く、光源にLEDを使用することで消費電力の削減を実現しています*。



*光源としての消費電力は、従来のCCD光学系+蛍光ランプに対し、CIS光学系+LEDでは約1/16

多彩な原稿に柔軟に対応、信頼性の高い原稿給紙性能。

厚い紙や複写伝票、プラスチックカードまで多彩な種類の原稿に対応。さらに超音波を利用した重送検知などで、トラブルの少ないスムーズな給紙を実現します。

用途に応じた、使いやすいソフトウェア。

さまざまな用途や想定ユーザーに合わせたソフトウェア設計を行い、直感的でシンプルな操作性を実現。ユーザーに快適なスキャン環境を提供します。

最適画像を提供する、多彩な画像処理機能。

モアレや地色の除去、バインダ穴の消去、テキストエンハンスメント、ドロップアウトカラーなど、多彩な画像処理機能で目的に応じた最適な画像を生成します。

*機種により搭載機能が異なりますので、詳細は弊社ホームページをご覧ください。



大量の情報を、 迅速にデジタル化。

入会のおすすめ

公益社団法人 日本文書情報マネジメント協会に入会しよう!!

日本文書情報マネジメント協会 (JIIMA) は内閣総理大臣から認定された公益法人です。設立55年の歴史を誇り、国際規格ISO/TC171 (文書画像) の日本審議団体でもあります。画像情報マネジメント関連、国内唯一の団体で、会員企業も中小から大企業まで全国にわたり、その数は200社を数えています。

委員会活動、各種セミナー・研修会への参加、eドキュメントJAPAN出展に有利な条件で参加できるなど特典も豊富。学識経験者を交えての啓発活動は、必ずや企業価値を高めてくれるでしょう。ビジネスの分野を広げ、発展させる絶好のチャンスです。ぜひご入会ください。



毎月
電子発行される
機関誌「月刊IM」



豊富なナレッジを
会員専用サイトで



eドキュメントJAPANの
出展も有利に



割引価格で受講
各種セミナー

会員の特典

- 各種委員会に参加でき、具体的な活動の中で、視野を広げ、交流を深めることができます。
- 各種セミナー、研修会、eドキュメントJAPANの出展に安価な費用で参加できます。
- 機関誌「月刊IM」が無料で電子閲覧できます。
- 会員専用サイトで、JIIMAの最新活動を閲覧できます。
- マネジメント導入事例、最新の技術動向、国内・海外事情など、有益な情報をいち早く入手できます。
- 各種参考出版物、商品(解像力試験標板、試験図票、ターゲット)が割引価格で購入できます。
- 国際的な文書情報マネジメントショー(AIIMなど)のツアーに参加できます。

会員種別と会費 (2014年10月より)

	入会金	年会費
■ 一般会員 文書情報マネジメント 関連システムを利用する 法人・個人	1万円	5万円
■ 維持会員	入会金	年会費
文書情報マネジメントに関 連するメーカー、ディーラー、 ソフト開発、入力サービス などを業とする法人・個人	資本金10億以上 30万円 資本金1~10億未満 20万円 その他の法人 10万円	30万円 20万円 10万円

入会のための登録簿はホームページよりダウンロードできます。

<http://www.jiima.or.jp/>「入会のおすすめ」よりアクセスしてください。

入会に関するお問合せは **TEL 03-5821-7351** 日本文書情報マネジメント協会事務局まで



文書資料、図面、技術

コンプライアンスを確かなものにするデジタ

**KIU会員に
お任せください。**

新しい法体制の整備は、今後の文化、文書等の保存記録に厳しい仕様を求めています。e-文書法をはじめ内部統制に関する法律が次々に施行され、適切な記録、管理、利用そして長期保存にどう対応するか大きな課題となっています。

一方、IT時代に入り記録情報の漏洩と消失に対するリスクマネジメントの構築が課題として浮上しています。

コンプライアンス強化には、IT技術基盤の強化と活用、文書の記録管理と電子記録の確実な管理がカギとなります。

関東イメージ情報業連合会(KIU)会員会社は、長年にわたり文書・資料、図面のデジタル/アナログ記録から文化財の記録管理まで、多様なノウハウと技術を駆使して文書情報マネジメントシステムを提供しております。

ご相談、ご用命はお近くのKIU会員までご連絡ください。

(KIUは、各種記録媒体への入出力と記録保存、システム開発、資料保存に関するコンサルティングサービス等を業務とする右記の関東一円の企業で組織された業界で唯一の団体です)

(有)飯島写真製作所

〒286-0041 成田市飯田町132-10
www.iijima-co.com

047-627-2345

(会)(株)インフォマージュ

〒104-0054 中央区勝どき2-18-1
www.infomage.jp

03-5546-0601

エイチ・エス写真技術(株)

〒210-0015 川崎市川崎区南町16-20
www.hs-shashin.co.jp

044-244-5121

エヌビーアイ(株)

〒102-0083 千代田区麴町5-7-2
www.nissho-bi.jp

03-6380-8152

(株)エヌユーエス

データ&メディアトランス事業部
〒136-0075 江東区新砂1-12-39
www.nus.co.jp

03-5665-6173

(理)関東インフォメーションマイクロ(株)

〒320-0071 宇都宮市野沢町602-2
http://kantoinfo.net

028-665-9777

(株)ケー・ビー・アイ・エス

〒140-0014 品川区大井1-23-4

03-5746-5082

(理)(株)国際マイクロ写真工業社

〒162-0833 新宿区笹筒町4-3
www.kmsym.com

03-3260-5931

桜工業写真(株)

〒141-0031 品川区西五反田8-3-13

03-5436-1821

(株)サンマイクロ

〒156-0051 世田谷区宮坂2-12-4

03-3425-0431

(株)ジェイ・アイ・エム

〒102-0072 千代田区飯田橋3-1-11
www.jim.co.jp

03-5212-6001

(株)ジムサポート

〒143-0006 大田区平和島5-8-4

03-3761-1301

(株)ダイショウ

〒120-0005 足立区綾瀬3-6-2
www.daishou.co.jp

03-5616-1301

中央光学工業(株)

〒112-0012 文京区大塚3-14-6
www.ckk-cfp.com

03-3943-7411

資料の電子化とアーカイブ

ル記録管理とマイクロフィルム入力・変換／長期保存対策

(顧) 中央光学出版(株) 〒105-0003 港区西新橋3-11-1 www.cks.co.jp	03-6271-5561	(顧) 幸商事(株) 〒238-0006 横須賀市日の出町2-5 www.bs-miyuki.co.jp	046-822-4976
(株)ディック 〒183-0026 府中市南町2-6-38	042-336-3851	ムサシ・イメージ情報(株) 〒135-0062 江東区東雲1-7-12 www.musashi-ij.co.jp	03-6228-4056
(株)テック 〒135-0003 江東区猿江1-15-5 www.tech-jp.net/	03-3631-9701	(株)ムサシ・エービーシー 〒104-0045 中央区築地2-11-26 www.musashi-abc.co.jp/	03-5565-8301
東京ソフト(株) 〒140-0014 品川区大井1-28-1 www.tokyosoft.com	03-5746-3072	ムサシ・フィールド・サポート(株) 〒104-0061 中央区銀座8-20-26 www.musashinet.co.jp/	03-3546-7779
東京都板橋福祉工場 〒175-0082 板橋区高島平9-42-1 www.jcws.or.jp/	03-3935-2601	(有)八千代マイクロ写真社 〒276-0047 八千代市吉橋1834-2 www.yachimai.co.jp	047-450-1616
東日情報処理センター(株) 〒321-0983 宇都宮市御幸本町4864 www.toh-nichi.co.jp	028-663-1221	山崎情報産業(株) 〒101-0032 千代田区岩本町1-12-3 www.yamajo.co.jp	03-3866-1156
ナカシャクリエイテブ(株)東京支店 〒105-0013 港区浜松町2-2-3 www.nakashatokyo.jp/	03-5401-3636	(有)大和マイクロサービス 〒242-0022 大和市柳橋4-15-8	046-263-7255
(副)(名会)(株)ニチマイ 〒113-0033 文京区本郷1-10-9 www.nichimy.co.jp	03-3815-1231	(有)山本マイクロシステムセンター 〒381-2221 長野市川中島町御厨1963-5 www7.ocn.ne.jp/~imsy	026-283-5353
(株)プリマジェスト ソリューションビジネス本部 統括2部 〒212-0013 川崎市幸区堀川町580 www.banctec.co.jp	044-578-5122	(監)(株)横浜マイクロシステム 〒220-0061 横浜市西区久保町13-25 www.ymsystem.com/	045-242-0695
(株)福祉工房アイ・ディ・エス 〒191-0003 日野市日野台5-22-37 www.fukushiids.com	042-584-6161	(理)(株)れいめい 〒210-0002 川崎市川崎区榎町6-9 www.reimei.com/	044-222-3701
富士マイクロ(株)東京支店 〒105-0004 港区新橋1-18-21 www.fujimicro.co.jp/	03-6869-0862		(50音順)
(理)(株)ミウラ 東京支店 〒141-0031 品川区西五反田8-3-6 www.kkmiura.com	03-5436-3211	(名会)名誉会長、(顧)顧問、(会)会長、(副)副会長、 (理)理事、(監)監事会社 (全国組織・日本イメージ情報業連合会のHPは www.jiisu.jpまで)	



関東イメージ情報業連合会

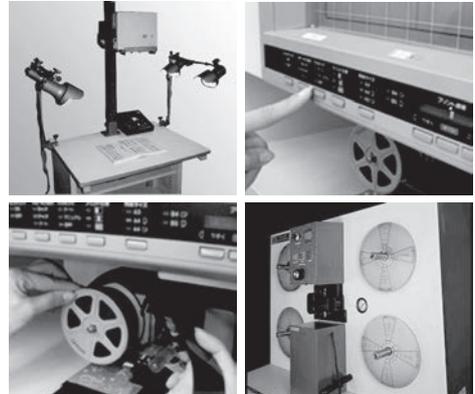
〒104-0054 東京都中央区勝どき2-18-1 黎明スカイレジデル
(株)インフォマージュ内
TEL / FAX (03)6204-2761

Document Scanning&Conversion

すべてのドキュメントをデジタル化する
デジタル化アドバイザー



HS Inc. Image & Information Management Service



Digital Conversion

マイクロフィルムデジタルコンバート
コンサルティング

Document Archives の最先端を行く

お客様の満足を目指して

70年



20001089



ISO 9001
BUREAU VERITAS
Certification
18283

ISO 9001:2008, JIS Q 9001:2008

HS ASAMI GROUP
H・S アサミグループ

- 関西写真工業株式会社 / マイクロ撮影・電子ファイル
- アサミクリエイト設計株式会社 / 機械・電機設計製図請負
- アサミ写真情報株式会社 / GIS 構築・ソフトウェア開発
- アサミ計測情報株式会社 / GIS 構築・ソフトウェア開発
- アサミテクノ株式会社 / 機械全般の設計業務請負 (2D3D CAD)

HS エイチ・エス写真技術株式会社

Image & Information Management Service

LOOKING AT FUTURE OF OFFICE NEEDS

URL <http://www.hs-shashin.co.jp>

Address

本社 / 553-0003 大阪市福島区福島4丁目8番15号
TEL 06-6453-4111 FAX 06-6453-3999

HS Network

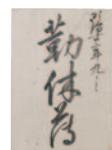
東	京	03-3582-2961	本	部	06-6452-0101
川	崎	044-244-5121	テ	クニ	06-6453-6188
横	浜	045-751-6788	西	部	06-6461-9771
敦	賀	0770-23-7283	堺		072-241-1839
若	狭	0770-32-9150	泉	佐	072-469-3051
滋	賀	0749-64-0847	神	戸	078-671-7488
京	都	075-671-7980			

IM

〔月刊〕

2014-9月号 通巻第524号

- 6……………〔ケース・スタディ〕
**国立国会図書館デジタル化データを活用した
 プリント・オンデマンド出版**
 株式会社インプレスR&D 福浦 一広
- 10……………現代の文書管理を法制的視点から掘り下げる
 シリーズ4（最終回）**スポーツを科学する**
 JIIMA顧問弁護士／牧野総合法律事務所 牧野 二郎
- 16……………〔手記〕**JIIMA 米国業界視察研修に参加して**
 株式会社アピックス 新川 由樹
 富士ゼロックス株式会社 小島 俊一
 株式会社ニプロス 小宮 隆司
- 22……………〔座談会〕米国業界視察研修を終えて
**名門大学・世界的情報企業・最先端医療の現場から
 NYのいまを探る**
- 28……………〔わが館のお宝文書〕
 高島屋史料館所蔵 **勤休簿**
- 29……………東北大学史料館所蔵 **仙台医学専門学校文書**
- 30……………〔連載〕統合文書管理規格
 第4回 Part3：Disposal—価値とリスクを勘案しながら文書を処分する—
 JIIMA標準化委員会 木村 道弘
- 33……………**JIIMAセミナー 2014 アンケート報告（東京）**
 セミナー委員会 鈴木 憲彦



- 13…………… **コラム** 晴天なれど遠霞 「ウソとホントの狭間で」
- 35…………… **新製品紹介**
- KODAK SCANMATE i1150
 - imagePROGRAF iPF785 / iPF780
 - SnapLite
- 36…………… **ニュース・ア・ラ・カルト**
- JIIMA 文書情報マネージャー認定セミナーに48名の参加
 - パナソニック 大容量記録装置を今冬にも発売
 - PFU ワークスタイル変革セミナーで紙文書の動向を考察する
 - JIIMA 経営強化、スキルアップ講座を続々開催
 - ニチマイ 第11回アーカイブレコーディングセミナーを開催
 - 富士ゼロックス 診療記録の二次利用を効率化する新システムを提供
 - KIU夏季研修会・納涼会を開催
 - 各社ニュース
- 38…………… ■ JIIMAニュース
- 40…………… ■ IM編集委員から

販売品ご案内
 スキャナ評価用テストチャート
 〔書籍〕文書／記録管理システムの選び方／育て方 …………… 9頁

広告ガイド

キヤノン電子株式会社……………	表2	株式会社横浜マイクロシステム……………	12頁
株式会社PFU……………	表3	富士ゼロックス株式会社……………	14頁
eドキュメントJAPAN2014開催案内……………	表4	株式会社インフォーマージュ……………	26頁
JIIMA入会のおすすめ……………	前1	コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社……………	27頁
関東イメージ情報業連合会……………	前2	株式会社アピックス……………	32頁
エイチ・エス写真技術株式会社……………	前4	パナソニック システムネットワークス株式会社……………	34頁



国立国会図書館デジタル化データを活用した プリント・オンデマンド出版

株式会社インプレスR&D
取締役
NextPublishingセンター
副センター長

ふく うち かず ひろ
福浦 一広



国立国会図書館のパブリック ドメイン・コンテンツを活用

インプレスR&Dは、4月21日より国立国会図書館（以下、NDL）が所蔵しているデジタル化データを活用し、「NDL所蔵古書POD」としてプリント・オンデマンド技術を用いた出版を開始した。「NDL所蔵古書POD」で取り扱っているコンテンツは、すべてNDLが所蔵し、近代デジタルライブラリーとしてWeb公開されている著作権が満了したパブリックドメイン・コンテンツだ。

「国立国会図書館デジタルコレクション」がNDLでデジタル化された全資料をNDL内の端末から閲覧可能なのに対し、「近代デジタルライブラリー」は「国立国会図書館デジタルコレクション」で電子化したコンテンツのうち、著作権が切れている、または著作権が存続しているものの著作権者の許諾を得るなどの対応を行ったコンテンツをインターネット経由で一般公開しているのが特徴だ。

コンテンツは、底本をスキャンした画像ファイルの形式で公開されているので、Webブラウザなどで簡単に閲覧できる。また、PDF形式にしてダウンロードできるサービスなども提供されている（対象となるのは最大20コマ）。

NDL所蔵古書PODの特徴

近代デジタルライブラリーで公開されているコンテンツは、パソコンなどで手軽に閲覧できる。とはいえ、眺める程度であればパソコンで十分なのだが、書籍として読もうとすると読みづらい。これを印刷・製本して書籍の形態にすることで、読みやすくしたのが「NDL所蔵古書POD」になる。近代デジタルライブラリーのコンテンツを利用者の代わりに印刷・製本して提供するサービスと比べると非常に理解しやすいだろう。

制作上は、NDLで公開されているスキャンデータをできるだけそのままの形でPOD用データにしているのがポイン

トといえる。一点一点画像処理することも検討したが、当時の著者、発行者や関係者に敬意を表し、できる限りそのままの形で復元することを優先した。

このNDL所蔵古書POD、販売開始直後からFacebookやTwitter上で「非常にユニークな取り組みだ」「本の形になっているからこそ読みやすい」など、好意的な意見が多く寄せられている。特に近代デジタルライブラリー利用者からは、パソコン上で閲覧はできるものの決して読みやすいといえない資料が、本の体裁を取り戻して読めるようになっていることを評価する声が多く寄せられた。

また、販売ストアのひとつである三省堂書店の場合、古書の町である神保町という土地柄もあり、NDL所蔵古書PODのサンプルを手に取りながら書店店頭で熱く語りかける方、発刊してほしいタイトルをリクエストする方など、再び印刷物の形態になったNDL所蔵古書PODの各タイトルに関心が集まっている。



注文ごとに1部ずつ印刷・製本するPODを採用

NDL所蔵古書PODを商品化する上での特徴は、POD（プリント・オンデマンド）を用いたところにある。PODは、デジタル印刷機を利用することで、必要なときに必要な部数を印刷・製本できる仕組み。従来は100部など少部数の印刷に使われていたが、インプレスR&Dでは、1部単位で出荷可能な仕組みとしてPODを採用しているのが特徴だ。

この仕組みを支えているのが、アマゾンジャパン、三省堂書店、大日本印刷ウェブの書齋など、PODに対応する印刷・製本機を書店（ストア）独自で導入したことが大きい。これらの書店（ストア）で共通するのが、お客さまから注文を受けてから印刷・製本を行うという点。お客さまは書店（ストア）が用意したカタログページから、欲しい書籍を選択し購入手続きを行えばいい。つまり、買い方としては通常の書籍と同じなので、お客さまは何の不便も感じない。ストアは、注文が入ったのを確認し、それから印刷・製本作業を行い、発送する。注文後に印刷・製本を行うので時間がかかるように思われるだろうが、三省堂書店の場合は書店店頭で約10分待つだけで完成する。ネット書店のアマゾンジャパンの場合は約5時間あれば完了するため、通常の書籍とほぼ同じ時間で発送可能になる。つまり、お客さまからは通常の書籍を購入するのと何も変わらない仕組みになっている。

出版社にとっては、在庫を持つ必要がないばかりか、品切れになるリスクもなくなる。大量生産に不向きなNDL所蔵古書PODは、この仕組みがあったから

こそ実現した企画といえる。

デジタルデータだから印刷出版につながった

今回のNDL所蔵古書PODは、スキャナデータをPODデータとして利用することで実現した企画。ある意味、シンプルな企画ではあるが、重要なポイントがある。それはスキャンとはいえデジタルデータとして保管されているからこそ、PODを利用した印刷出版が可能になったという点だ。

インプレスR&Dが発行する電子出版専門誌「OnDeck」(on-deck.jp)では2011年秋に「OnDeck 電子出版ビジネス 10の提言」を発表しており、その中のひとつに「PDFでいいじゃないか」という提言が含まれている。「DTPで制作していない書籍や古い書籍なら、スキャンしてPDF化しよう。品質を気にする出版社は多いが、それよりも知識が流通していないことを問題と認識しよう。」と述べているとおり、スキャンであっても電子化

することで、さまざまな形態での流通が可能になる。今回の取り組みはそれを証明するものでもある。

意外に大変だったコンテンツ変換

とはいうものの、近代デジタルライブラリーのスキャナデータをそのまま利用することはできなかった。

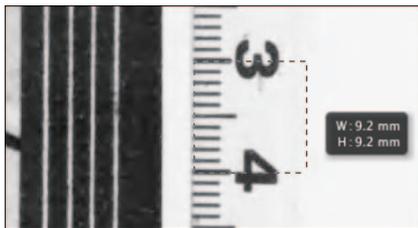
近代デジタルライブラリーで公開されているのは、NDLの所蔵古書の各ページを見開き表示にしてスキャンした画像ファイル。デジタルデータになっているので、PODで利用するのは比較的簡単かと思われたが、実は意外に大変だった。

まず、スキャン画像の解像度がコンテンツごとに異なっていたのが問題となった。NDLで公開しているものは見開き単位でスキャンしているのだが、当然のことながら、コンテンツごとに判型が異なるのだ。そのため、見開きページ全体をスキャンする際、書籍ごとに少しずつスキャン時のサイズが異なっているのだ。

NDLのスキャナデータには、書籍の



近代デジタルライブラリー。このように開始ページには定規が置かれている。



実際に測ってみるとサイズが一致していないことがわかる。

サイズがわかるよう、先頭ページに定規をおいてスキャンしている。これにより、その書籍がどのサイズなのかといった目安がつくようになっている。

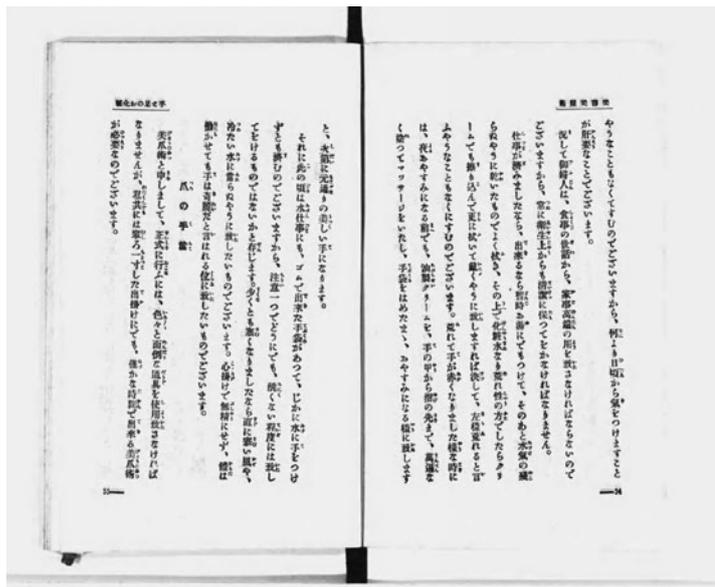
問題は目安がただけで、全書籍が統一されているわけではないという点。そのため、公開されている画像ファイルを印刷用途で利用すると、元の書籍と比べて小さくなったり、大きくなったりしてしまうのだ。判型の大きな本になるほど誤差が生じるため、今回は1タイトルずつ手作業で確認して対応した。

次に課題となったのが、ページ単位で分割するという作業。見開きページでスキャンしているので、PODで使えるように単一ページに分割しなければならないのだが、これも意外に面倒だった。中心を決めて分割すればいいだけ、と思っていたのだが、実際のスキャンデータは斜めになっているものも多く、単純に分割するわけにはいかなかった。元データの斜め補正をしてから分割すればいいと思いがちだが、左右ページで斜めの角度が異なっているなど、意外に人手がかかるものだった。

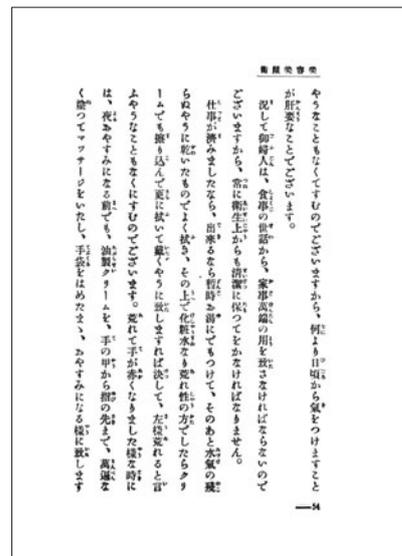
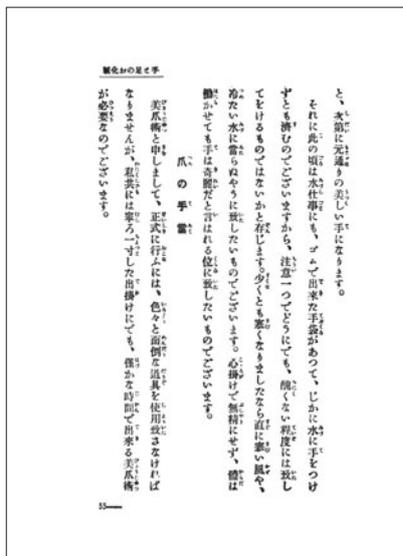
仕上がりサイズの目安作り

単一ページに切り取った画像ファイルは、PODで処理できるようPDF形式に変換する必要がある。その際、仕上がりサイズをどのように決定すればいいのか課題となった。

本来であれば、元の書籍と同じサイズ



見開きでスキャンしているため、ページによってひずみが異なっている。



元の書籍と比べると、左右が広がっているのがわかる。

にすればいいのだが、PODの印刷・製本の規定（ノド側の空きなど）を反映しなければならず、どうしても元の書籍と同じにはならなかったのだ。そのため、POD用のPDFを作成するときに、余白部分を多めにとって対応することになった。

目的に合わせたデジタルデータの活用

このように閲覧目的のものを印刷用に再加工するのは手間と時間がかかり、想

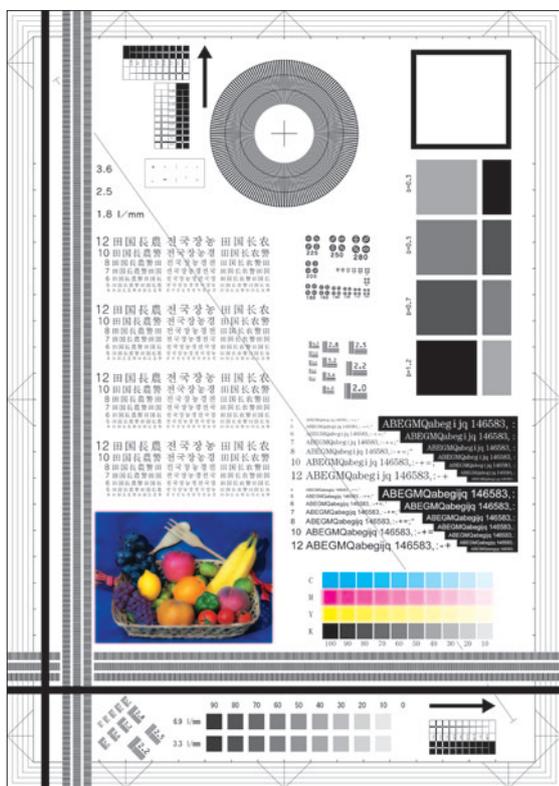
像以上に大変な作業であった。

とはいえ、閲覧用といってもデジタルデータがあったからこそ、実現したのがNDL所蔵古書PODでもある。課題は多いものの、デジタル化しているからこそ、さまざまな企画が生まれているのは間違いない。

インプレスR&Dは今後も、目的に合わせたデジタルデータの活用で、日本の文化的資産の供給を支援していきたい。

NDL所蔵古書POD
<http://www.amazon.co.jp/kosho-pod>

国際規格 ISO12653-3 スキャナ評価用テストチャート 販売のお知らせ



1. 国税庁 スキャナ保存要件の確認に最適な
国際標準テストチャート
分解能図票や文字図票により電子化作業の結果確認が明確となる他、濃度色票などにより、改ざん痕も明らかになります。
2. 1枚のテストチャートで、白黒文書とカラー文書に対応
カラー色票やカラー画像が盛り込まれた1枚のテストチャートで、モノクロ文書とカラー文書に共用でき、作業効率が大幅に向上します。
3. 片面又は両面テストチャートの選択が可能
両面同時スキャンの評価も可能となり、作業効率アップ及び評価精度の向上が図れると共に、「裏写り」の評価も可能になります。
4. 漢字など2バイト文字の品質判定が明確に可能
JIIMAから「日本語漢字・中国語簡体字、ハングル等の2バイト構造の文字品質を判定するチャート」として国際提案し、初めてISOで正式に承認されました。

	JIIMA正会員領布価格 (税別・送料別)	一般領布価格 (税別・送料別)
標準包装品 片面/両面印刷 各1枚	8,000円	10,000円
バルク包装品 片面印刷 10枚 両面印刷 10枚	24,000円 30,000円	30,000円 40,000円

※いずれもスキャナ画像の評価方法を細説した「使用説明書」が同梱されます。

ご注文はJIIMAホームページ
http://www.jiima.or.jp/publishing/hanbai_testchart.html

新刊案内

文書／記録管理システムの 選び方／育て方

文書管理の
考え方・ポイントを
初心者に分かりやすく

文書／記録管理システムを選ぶ前に考えておくことは？ 組織内で文書管理を進めて行くために必要な事柄は？ 本書はこれらを解説した文書管理の知識集です。

これまでになかった角度からみることで、最適な文書／記録管理システムの導入、文書管理目的の見直し、管理不備のは正ができます。

文書管理を行ったことがない人でも分かりやすく説明しているので、文書管理の初心者にはピッタリの一冊です。

- | | |
|-----------------------------|------------------|
| 1 紙文書管理/ファイルサーバーそして文書管理システム | 6 文書・記録管理に関する規格 |
| 2 紙文書管理の重要ノウハウ | 7 新しい文書管理の流れ |
| 3 ファイルサーバーの整理 | 8 文書/記録管理システム調査表 |
| 4 文書管理システムのジャンル | 9 付録 目からウロコの文書管理 |
| 5 文書管理システムに重要なこと | 10 付録 用語集 |

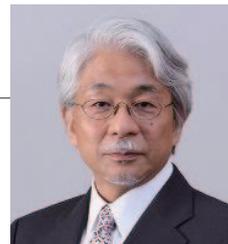


公益社団法人
日本文書情報マネジメント協会
記録管理委員会 編
B5版 83頁
本体 2,000円+税

発行 公益社団法人 日本文書情報マネジメント協会

申込み JIIMAホームページへ

スポーツを科学する



JIIMA 顧問弁護士
牧野総合法律事務所
まきのじろう
弁護士 牧野 二郎

2014年ワールドカップサッカー。夢のようなスターの競演もドイツの優勝でついに幕が下りた。開催国であり、サッカー王国といわれたブラジルは、ドイツを相手に準決勝を戦ったが、歴史的な大敗を喫し、4位に留まった。

番狂わせといえば、スペインの予選敗退は、あまりにも衝撃的だった。前回の優勝国であり、天才的司令塔シャビを中心において、名ストライカーのインiestaを擁した布陣で、今回も優勝を狙っていた。しかし、3位になったオランダに早い段階で完全に撃破されてしまい、そのまま予選敗退が決まってしまった。華麗なパスサッカーが見られなかったのは、本当に残念だった。

1 サッカーを記録する

試合の直前、NHKでは、夜のゴールデンタイムで、このスペインを取り上げ、特別番組を放送していた。相手のパスをカットして、ボールを奪ってから13回の連続パスで得点にまで結びつけた動きを記録し、解析したものだ。計算しつくしたように、見事なパス回しで、全ての選手がこれに呼応して、一つの生き物のように動く姿が、リアルに再現された。

この番組では、スペインチームの司令塔とされるシャビと、そのパスを受け取り、自在にシュートまでつなげることのできるインiestaの動きを徹底的に記録し、解析した。この二人は、日本人ほどの小柄な選手で、とてもフィジカルサッカー(格闘技サッカー)には耐えられない。そこで、監督の指導の下で、頭を使い、速いパスでつないでいく、パスサッカーを生み出したのだそうだ。

NHK取材班はシャビの頭に記録用のカメラを付けて、なにを見ているのか、なにが見えるのか、身体の動きとの関係はどうか、どのタイミングで動いたか、などを徹底的に記録し、解析した。

そこでわかってきたのは、シャビはほぼ360度の範囲で、全選手の動きを把握しており、どこにパスを出すかを瞬時に判断し、実行する、卓越した認識力と判断力を持っていると

いうことだ。味方選手の配置を頭に入れて、動きを正確に把握するのは、サッカー場を俯瞰しているようなイメージになるそうだ。相手を見つめて、目の前の選手にパスを出すのではなく、彼の頭の中で把握されている選手にめがけて、正確にパスを出す、というのだ。

そのパスを受けるのがインiestaなのだが、彼には体中に発信機を付けられて、身体の動きを克明に記録された。動きを通して重心の移動も解析された。すると、日本の選手などの重心の動きに比べて、極めて小さな重心移動であり、安定した走りができていることがわかった。

こうして、当時最強といわれたスペインサッカーを徹底的に記録して、解析し、その強さの秘密が明らかにしたのだ。

2 日本が強くなるためには

日本人は、どうしても体力的には欧米に太刀打ちできない。フィジカルサッカーでは、勝ち抜いていくことは難しい。そこで考えなければならないのはスペインのようなパスサッカーを身につけることであり、正確なパスと突破力でゴールまで進む力を付けることだろう。

その意味では、このNHKの分析は、多いに活かされるべきだ。徹底した記録と解析で、選手の力を最大限に伸ばしていくことが日本サッカーの強化につながるはずである。少年サッカーの時代から、ただ力が強いとか、足が速いとか、背が高いということが選手起用、選手採用の基準であれば、日本のサッカーに未来はないだろう。必要なのは、科学的な指導が可能になり、個性を活かす指導ができる環境を作ることである。

3 しかし、なぜスペインは負けたのか

スペインは、オランダに撃破されてしまい、そのあと崩れるように敗退してしまった。無敵艦隊がなぜ破られたのか、順当に言えば、シャビ、インiestaがマークされて、仕事を

させてもらえなかった、ということだろう。今回の優勝国ドイツはなんと8回の連続パスでゴールしたのだから、ますます磨きがかかったということになる。

ここは、スポーツの分からない私は、わたしなりに、情報の記録という視点から、挑戦してみよう。オランダやドイツは、過去のデータを徹底して解析し、それを活用しつつ、その次を考えた、と。ところが、スペインは、過去の勝利にこだわり、同じ戦略で対応したため、つぶされたのではないかと。シャビの頭にある、膨大な記録（正確な認識）と、豊富な経験に基づいて進んできたスペインだが、未知の課題に対する対応策がなかったのではないかと、ということだ。

他方で、オランダは、スペインを研究し尽くして、新しいサッカーを目指した。タフで、正確なサッカー、未知のサッカーを展開したのだが、スペインはそれに対する対応策、すなわち戦略が作られていなかったのではないかと、と。

4 ビッグデータの強みと弱さ

徹底した記録と、徹底した分析は「今まで」を見る上で、必須だ。それなくして、過去は理解できないだろう。ビッグデータがそうであるように、その膨大な記録は、過去から近過去である「現在」までの記録に過ぎない。クラウド、ビッグデータといっても、それは現在までのデータで、全てのデータは、その先（未来）のデータではないのだ。時計が進まない限り、次の記録は生まれてこない、これがビッグデータの限界なのである。

ビッグデータをクラウドといった大きなシステムに集積し、それを解析、利用することは重要だが、戦いは常に目の前で、時計とともに未知の世界に進むものであり、未来を引き寄せる方向性＝戦略が必要ということであろう。次の瞬間、そこには何のデータも存在しない、ということだ。必要なのは、そのことを理解して、どのような未来に対しても柔軟に対応できる力を作ることが求められているということである。

ビッグデータの時代の中で、わが国は世界各国に大きく水をあけられている。わが国のビッグデータの動きは遅きに失し、その分野での勝算はないというべきだろう。しかし、わが国には、人並み外れた技術力を持つ職人集団があり、突出した想像力を持つ人々がいる。ビッグデータを背景にして、そうした技術集団が、新しい戦略を作ることができれば、無

敵艦隊に見える膨大なデータを抱えた欧米諸国のITに対して、新しい戦略で立ち向かえるかもしれない。

5 ビッグデータを越えて

ビッグデータの先になにがあるのか、は、答えは単純だ。ビジネスの対象としての人々であり、市場なのだ。それらが発する情報を正確に記録して、分析し、活用するということである。その基礎にあるのは、私たち生活者だ。

最近、次々と自分の情報を記録して、解析するツールができてきている。興味を引かれたものが2つあるので紹介する。一つが「僕の来た道」¹というアプリケーションだ。スマートフォンに入れて、スイッチを入れると自分の行動を測定し、移動距離、滞在時間などを記録してくれて、その履歴をまとめてくれるソフトである。位置情報を利用するため電力消費が激しく、また、解決すべき課題も多いようだが、ちょっと興味を引く。意味不明な関係でスマートフォンの位置情報が取られる前に、自らの行動範囲や滞在時間などを、自ら記録して、知るといことは、新しい発見のように思える。これが進めば、どの電車に乗ったかわかるだろうから、電車の中に忘れ物をした際も、電車の特定と忘れ物の位置を瞬時に捕捉して、忘れ物を回収することができそうだ。痛い思いが、少しは解消されるかもしれない。



開発者Yahoo Japan Corp. iTunesでは配布中

もうひとつが、「Runtastic GPS ランニング&ウォーキング」²というアプリ。

これは、主にスポーツのトレーニングしたときの情報を記録して、消費したカロリーや、走るスピードなども表示して

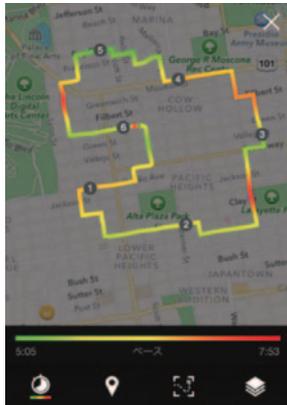
1 <https://itunes.apple.com/jp/app/puno-laita-dao/id536059062?mt=8>

2 <http://app-liv.jp/336599882/>でダウンロードできる



Runtastic GPS ランニング&
ウォーキング
runtastic社が販売、取扱

<http://app-liv.jp/336599882/>
から引用



くれる優れものだ。

モチベーションの向上にも役立つが、スポーツだけではなくドライブや散歩などの移動にも使えるそうである。

健康管理に役立つような情報が記録され、眼に見えるのが良い。うるさいほどに励ましのメールが来るのも面白い。が、アプリの登録の際に様々な情報が求められる。生年月日のほか、体重や身長、心拍数など、そして位置情報、高度情報などだ。どうしてここまで取れるのか、と思うほど多様な情報が採取され、記録される。これほど高度なアプリなのに500円程度だというが、データを収集しサーバに格納して、解析して、示してくれるものの、むしろそのデータのさらなる活

用を視野に入れていると考えた方が良いだろう。そのデータの価値は相当なもの、と読んでいるのだろうと思う。約款を見たが英語の約款なので英語の得意な方には良いかもしれない。裁判管轄はオーストリアの第三の都市Linzとなっており、注意が必要だ。

このアプリも位置情報を使用するため、電力の消費量が実に多く、動かしていると、スマートフォンが熱を持ち、奇妙な感じである。しかし利用者が多く、人気はかなり高いようだ。

こうしてみると、これまで私は、自分のことを一番知っているのが自分だと思い込んでいたのだが、知らないことが多く、また未来へつなげる情報活用をほとんどしてこなかったことが分かった。情報を記録し、解析することは、過去の事実を知るだけではなく、それを基礎に置くことで、これからの自分を作り上げていく、そうした工夫ができるということなのだ。ビッグデータの世界の、温故知新、というべきだろうか。ビッグデータを持つからこそ、新しい人生戦略ができるということかもしれない。健康に留意して、思い出をたくさん作り、それらを基礎に、未来志向をする。そのために、毎日の情報の記録は欠かせないもの、ということである。

皆様のご健康を心から祈念してアプリのスタートボタンを押すこととしよう。

企業財産である電子データを 安心・確実に長期保存する支援をします。

TiffやCADデータから直接35mm、16mmフィルムに変換し、OSに依存しない長期保存を保証します。



『正』の時代
データ



ドキュメント・ソリューションカンパニー

株式会社 横浜マイクロシステム

〒220-0061 横浜市西区久保町13-25
TEL 045-242-0695 FAX 045-242-0624

詳しい事例は、弊社ホームページからご覧下さい。 <http://www.ymsystem.com>

ウソとホントの狭間で

かつて新聞社で、霞が関の担当をしているときの話である。さる幹部が、「私はウソをつかれたんですよ」などと語っていたことがある。地下鉄の駅にクーラーを入れることになった時のことだ。

「都内の地下鉄にクーラーを入れたらどうかと勧めたんです。そうしたら、地下鉄の関係者がやってきて、理論上できませんなどと拒否されました」

技師までつれてきて、オームの法則がどうのこうののだとか、さっぱり分からない説明をされて、そういうものかと納得してしまったのだという。ちなみに、この人、文系ではあるが、東大出である。

そうしたら、その後、大阪の地下鉄がクーラーを入れることを決めた。負けじと東京でも始まった。

「やろうと思えばできたんですよ。でも、コストがかかるから、いうにことかいて、オームの法則まで持ち出すとは……。役人をだますとは、ひどい連中だ。なんて言ったか記録しとくんだ」と悔しがっていたのを思い出す。

でも、だますのは役人も同じことである。だますというのと違うかもしれない。洗脳するのである。

この間、さる会合で、知り合いの元財務省のお役人に国家予算について話してもらったところ、資料をたっぷり持って来てくれた。その中の項目の一つを示しながら「これが、記者の人たちを洗脳するために毎年出している資料でして…」と語っていた。こちらは、そんなことはとっくに知ってはいたが、「元」とはいえ、財務省の役人が自ら認めたのは初めてである。「やっぱりそうだったのかー」というのが正直な感想だった。

実は、記者の方も結果として、読者にウソを言うてしまうことがある。さる大臣は、定例の記者会見で、「米軍は、日本の〇〇だから」と言ったことがあった。というか、出席者全員、そう聞いたのである。30年足らず前のことである。まだ関係者が存命なので、詳しいことはご勘弁を。

夕刊の締め切りが迫っていたので、会見が終わるや否や、皆一斉に記事を書いて、大急ぎで会社に送った。すると、広報室長が大臣室に報告したのか、大臣から室長を通じて、「自分はそのことを言っていない。『以前、そんなことを言っ

た大臣もいたが』としゃべったはずだ」と、記者クラブの幹事である私に言ってきた。そんなバカなことはない、確かに言ったはずだ。とりあえず2〜3社の記者に聞いたら、同じ反応である。

「みんな、そんなことはないと言ってますよ」と広報室長に言ったら、彼も「そうでしょうね」と言う。すると大臣も「そうだったのか。俺もやきがまわったなあ」と、納得したと言うことだ。その日のテレビも新聞も、大臣が発言したというニュースばかりである。

それから事の真相を知ったのは、10年たってからである。久しぶりに一杯やりましょうと当時の広報室長を誘ったのだ。

「実はあの時、室員の一人が、大臣の言っていることは本当ですと言い始めたんですよ。そんなはずないだろうと思ったのですが、テープを聞いてみました。そうしたら、本当でした」

「えええ〜。で、そのテープはどうしたのですか」

「それはもうこの世に存在しません」

腰を抜かささんばかりに驚いた。

つまり、当事者の大臣を除き、あの場にいた記者、広報室員およそ30人のうち、たった1人だけが、真実を捉えていたのだ。この大臣は、前の役所でも記者クラブとトラブルがあったので、今度もそうなったら面倒だと大臣からの再度の問い合わせに「テープは録っていません」と答えたのだった。

当時の記者で、亡くなった人は二人いる。そのうちの一人は私と親しく、昨年病死した。この話をしたことがあるのかどうか忘れたが、私が言っていなかったとすると、私以外の記者全員が真実を知らないまま一生を終えるのだろう思う。今さら言ってどうなるのかとも思うが、とにかく全員が、まったく気がつかずに大誤報してしまったのである。

記録をとることの大切さ、その記録も自分たちの都合のいいように利用できること、そして、これが真実だとみんなで思ったことでも大間違いがある。

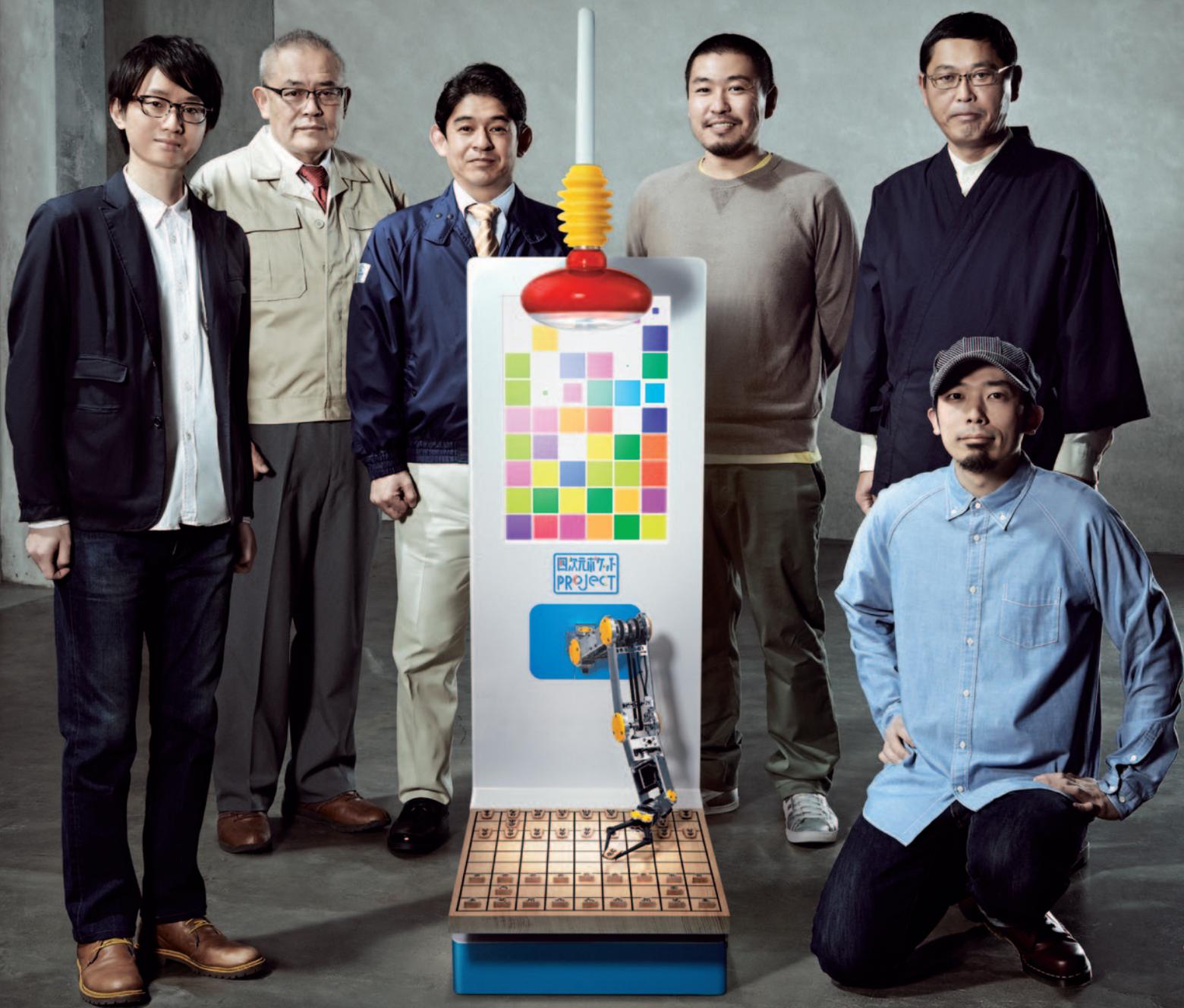
「さん（当時の大臣）、ごめんなさいーと言っても、もう遅いか。

……………

茂谷 知己（もたにとみ）

早稲田大商学部卒業、産経新聞東京本社に入社。政治部・経済部を経て法務次長、知的財産管理センター上級専門委員を務める。定年退職後は株式会社WOW LIFEを設立。インターネットを利用した情報配信、新規ビジネスをサポートしている。<http://wowlife.info/index.html>

どうだ、ドラえもん



日本の中堅・中小企業の可能性は、無限だ。私たちはそう信じています。いま、そのチカラをあわせれば、みんながワクワクしたドラえもんの「ひみつ道具」だって、作ることができるはず。富士ゼロックスは、複数の中堅・中小企業が連携してドラえもんのひみつ道具作りに挑戦する「四次元ポケット PROJECT」をスタート。ITソリューションのチカラで支援します。第一弾は、「セルフ将棋」。



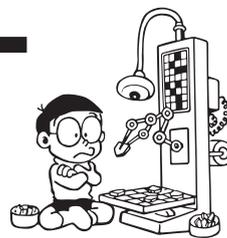
80th
藤子・F・不二雄
生誕80周年
FUJIKO・F・FUJIO 80th ANNIVERSARY

©Fujiko-Pro

コミュニケーションの未来を拓く

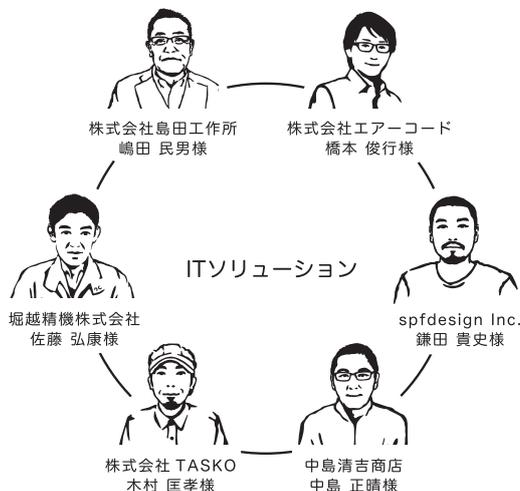
四次元ポケット PROJECT

PROJECT No.01 セルフ将棋



彼らをつないだのは、 富士ゼロックスのITソリューション

それは企業をつなぎ、紙と電子を融合し、ビジネスを加速。
情報共有・情報流通を促進し、新しい働き方を創造します。
中でも今回のプロジェクトにおいては、
ドキュメント共有を支援するクラウドサービス
Working Folderを中心としたソリューションで
企業間プロジェクトを円滑にすすめていきます。



富士ゼロックスのITソリューションが実現する企業間連携

複数企業間での情報共有

クラウド上での
インタラクティブな
情報流通

複合機との連携

モバイルからのアクセス

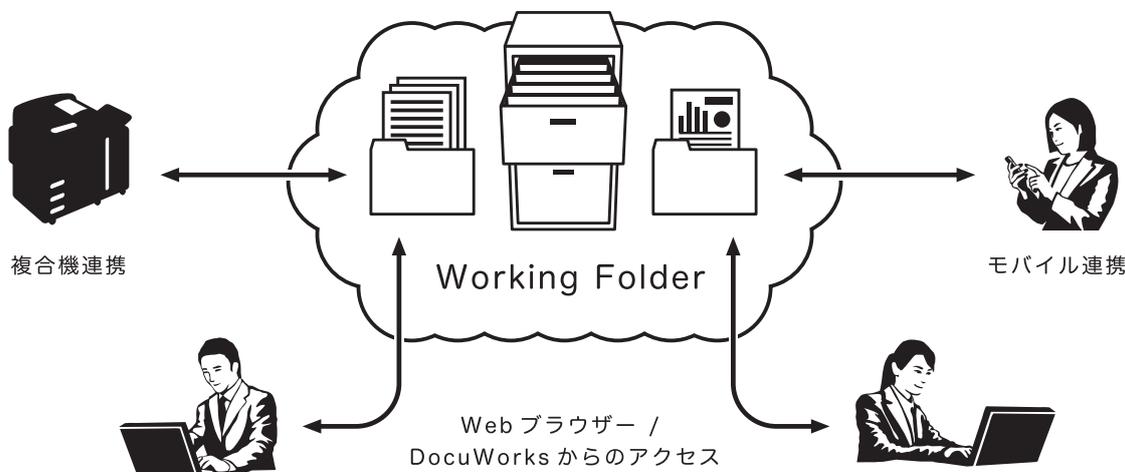
プロジェクト資料の共有にクラウドサービスWorking Folderを活用することで、参画メンバーはいつでも最新情報にアクセスすることが可能。閲覧権限のある専用フォルダの活用で、よりセキュアな情報共有を実現します。

Working Folderとドキュメントハンドリング・ソフトウェア DocuWorksを活用※して資料の修正指示や作業進捗の確認を行うことで、プロジェクトの進行をスピーディーに。

※DocuWorksドキュメントトレイオプションと連携

紙文書を複合機でスキャンし、Working Folderに直接アップロードすることが可能。また、ペーパーレスファクス受信機能を使って直接Working Folderに格納することでペーパーレス化を推進。書類の紛失や確認漏れのリスクを低減します。

Working Folderにアップロードされた情報は、外出先のモバイル端末でタイムリーに確認することができます。対応時間のロスが減るなど、円滑なコミュニケーションを後押しします。



さらに詳しくは <http://www.fujixerox.co.jp/4d/> へ

JIIMA 米国業界視察研修に参加して

6月9日～14日、JIIMAが主催した米国業界視察ツアーに
今年は22名の参加があった。

NARA・病院・企業・展示会と一週間をかけて視察した米国の実情を
参加者の皆さんから手記を寄せていただいたので紹介する。

医療機関と図書館の文書管理を見聞

株式会社アピックス 事業企画室 にい がわ よし き
新川 由樹

6月10日 AM コロンビア大学医療センター

コロンビア大学医療センターは、コロンビア大学やワイル
コーネル大学など3つの大学病院の共同センターとなり、約
2万人の労働者がいる大規模な大学病院です。ここでは、患
者はもちろん医師や看護師、また事務員や牧師に至るまでの
センシティブな情報をどのように守っているか、ということ
を同大学のセングータ教授よりご教示いただきました。

同センターで守るべき「アセット」、これは価値があるも
のとしてしっかりコントロールしなければなりません。コン
トロールを怠ると脆弱性が発生し、リスクはどんどん上がっ
ていきます。リスクを皆無にすることは不可能なため、でき
る限り低くすることが重要ですが、受け入れられないくらい
高い状況になってしまった場合は、コントロールそのものを見
直す必要があります。どういうアセットやコントロールが
あり、どういうリスクが発生していて、どこまでなら受け入
れられて、どこまでだったら受け入れられないのか…という



コロンビア大学病院前にて

ことを、セングータ教授は常にチェックをされているよう
です。また、「アセット」に関わる脅威は、外部はもちろん内
部からも発生し得るものであり、内部脅威については悪意が
有るものもあれば、

「USBをなくしてし
まった」など偶然起
こってしまうパター
ンもあり、後者の方
が問題としては大き
いということでした。



セングータ教授から説明を受ける

同センターのセキュリティ対策は、いわゆるマネジメント
システムに沿って実施されており、センターのネットワー
クは、インターネットからアクセスできる部分と、インターネ
ットから隔離された部分から構成され、医療機器はこのイン
ターネットから隔離された部分に置かれています。このネッ
トワークに必要なサーバは1,000以上あり、ネットワーク
中のワークステーション自体は15,000～20,000ほど存在し
ているということで、その数字だけでも非常に大規模なネッ
トワークで繋がっているということが想像できます。

カルテ、医療データ、種々の文書はすべて、共通のポリシー
のもとに3～10未満の
機密レベルが設定され、
医師、看護師、事務な
どの利用者の役割ごと
に、どの機密レベルま
でアクセスできるかが
決められています。





これ以上機密レベルを細分化しても管理しきれないということでした。文書については電子メールを含め全て暗号化して保存する方向で進めており、現在の進捗は80%とのことでした。また、4年以上経過したものはアーカイブに移して安全に保管し、廃棄する場合は電磁的に完全消去後に廃棄するというポリシーでリスクを防いでいるようです。

ログの監査については、「誰がいつどのデータにアクセスしたのか」ということなどのチェックを実施されています。不可解なアクセスが発見された場合は、E-mailでアラートを出すようですが、それはユーザー本人に出すわけではなく、そのユーザーの上司に「一体どういう目的でアクセスしたのか？」ということを質問し、もしそれが研究に関わることであれば研究ナンバーを報告させるなど、そのデータにアクセスした理由の明確化も徹底されているとのことでした。ちなみに、この6年で743件の調査実績があり、最も多いのは「過度なアクセス」で、他には「通常パターンを外れたアクセス」、「長時間のアクセス」、「時間外のアクセス」などが挙げられるということです。

紙のドキュメントについては、プリントアウトしたユーザーのIDが印字されるようにしていたり、シュレッダーを各所に設置するなどしているようですが、本格的な対策はまだまだこれからということでした。

6月10日 PM コロンビア大学バトラー図書館

バトラー図書館は公共（主に学生や研究者）の対応を主に行っており、所蔵しているものは1,100万冊にも及びます。これまで、予算の8%は新しい本の購入に費やしていたため、新しい本がどんどん増えていったようですが、2008年の不況以降は減少しているそうです。



同図書館のスキニングセンターでは、他の図書館と連携して、希少価値の高い文書のデジタル化を行っています。予算が限られているため、助成金頼みの部分もあり、助成金があって成り立っているプロジェクトであるということは公言されておりました。

米国では文書のマイクロフィルム化は減り続けていますが、どの媒体が一番長く使われていくか？という観点から、マイクロフィルムのデジタル化を進めているようです。

館内のデジタル化センターの一つを見学させていただきましたが、ここでは毎日、研究者が必要となるマテリアルのスキニングを行っているようで、スキナは富士通やコニカミノルタなど日本製の機械が多く見受けられたことが印象的でした。



日本製のスキナが活躍

米国のクラウド事情

6月11日 AM クラウドEXPO

今回のニューヨーク研修の目的の一つである、JAVITSコンベンションセンターで開催された「Cloud EXPO」（正確には、Cloud EXPOと同時開催の形でInternet of Things

富士ゼロックス株式会社 グローバルサービス営業本部 こじま しゅんいち 小島 俊一

EXPO、BIG Data EXPO、DevOps Summitの4つイベント)を視察しました。視察前日にPFU社からナレッジレイク社に出向されている駐在員の高橋氏から事前に今回のEXPO特徴や傾向の説明を受け、視察当日もサポートしていただきました。



高橋氏によれば、オープン・キーノートスピーチは、MS社のプレジデントで、これからのクラウド時代のビッグベンダーは、①マイクロソフト②グーグル③アマゾンの3社に絞られるとのこと。また、今回のキーワードとしては、API Economy：クラウドサービスへのAPI提供により新たなビジネス連鎖とEnterprise Cloud Adaption：企業内でのクラウド利用促進があげられるということでした。

カンファレンスの基調講演はオラクル社のSandra Cheevers シニアプリンシパルプロダクトディレクターが「Cloud Odyssey：A Hero's Quest」と題し講演しました。20分以上の非常にクオリティが高いCGアニメ映画仕立てで、宇宙船のチーフ



エンジニアが技術と経験値をもったパートナー(=オラクル社)に支えられて見事にクエスト達成という話が展開されました。

クラウドの利点は、速さ100倍、コスト半減、リスク100%減となるということです。速さは、自らがサービスを行い・カタログ化され・弾力性があることから加速され、コストは、資源共有・従量制・自動化により低減され、またリスクは高可用・セキュリティ・コントロール(管理策)より低減される。例えばPaypal社は99.99% SLA(サービス品質保証) 準拠を達成しているとのことでした。計画、実施段階においては、事前準備がカギということです。

一般セッションでは、「整合のとれた性能のためのクラウドの最適化とアーキテクチャ」と題した講演があり、クラウドにおける最適化対象は、CPU・ストレージ・ネットワークであり、設計のキーは、スループット確保・ステートレス/非同期(つまり、何も共有しない)・チェックポイント削減・I/Oの制限・APIである。また、仮想化手段のHypervisorよりも、LXC(Linuxコンテナ)を用いた方がシンプルである

と解説されました。

また「クラウドビジネスとAPIの経済」セッションでは「既存システム・サービスの統合」と題した講演で、イノベーション進展のキーは、フラグメント(分割)・アジリティ(俊敏さ)・収益漏れ軽減へのチャレンジであり、収益漏れは、市場での立ち上げが早い遅いかに係らず終わりは同時期ゆえ、立ち上げの遅れが収益に大きく影響するとのことでした。

「クラウドネイティブの意味」と題した講演では、クラウドの長所は、パフォーマンス・コスト・インテグレーション・標準であり、短所は、ポータビリティ(移植性)・マイグレーション(移行)・タレント(技量)不足であるが、多くの場合、アーキテクチャ(構造設計)が欠如し、高価な開発とパフォーマンス低下を招いているとのこと。設計・開発時にアーキテクチャが考慮されていれば、7割以上の問題は解決するということです。

さらに「Enterprise Cloud Adaption：企業クラウドの採用」トラックでは「クラウド内の企業サイロを破壊する」と題した講演で、企業サイロ¹は大きく3種類あり、組織のサイロ・アプリケーションのサイロ(COTSと対比して)²・不均質なインフラのサイロを横断的アーキテクチャ・アジャイル構造の集合・動的スキーマ・メタデータのリアルタイム参照等々で解決すべきとの提案がありました。

一方、展示ブース出展社は77社で、大きく次のように大別されていました。

(1) クラウド用プラットフォームや開発環境

Paas、IaaS、DBaaSと呼ばれているプラットフォーム提供

(2) クラウドの運用管理ツール

自動化ツール、性能や容量管理ツール

(3) クラウドサービスそのものの提供

マネージドサービス、クラウドへのバックアップ、Web会議など

(4) クラウドに付随する各種サポート

移行、課金、API開発

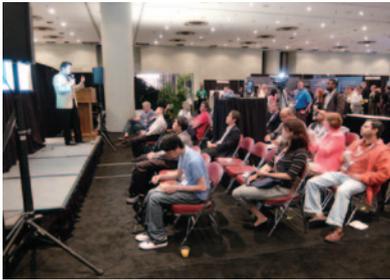
(5) クラウド用ソリューション提供

セキュリティ、電子署名

展示フロアでは出展社によるミニプレゼン(20分/社、30席程度)を行っており、社によりばらつきはあるものの、

1 いわゆるカベと同義。組織のサイロ=組織のカベ。

2 アプリケーションのサイロ=特注品。COTS(Commercial Off-The-Shelf)=市販品。



展示場各所ではミニセミナーが開かれていた

それなりに集客がありました。

展示のトピックスとして印象的だったものを紹介します。

MetraTec Corp社の課金サポートは、クラウドサービス提供者に代わって、契

約から料金徴収までを代行しています。契約や料金徴収は非常に手間のかかる作業なので、専門化する意味があるということでした。

SOA Software社は、既存サーバをクラウドに組み込むためのAPI開発を請け負っています。会場内では同様の出展者が相当数散見されました。

InMage社は、12core・max120TB RAID1+0の1Uアプライアンスサーバを提供し、ハイブリッドクラウド・レプリケーション・事業継続・バックアップを実現していました。

Silanis社は、クラウド上位での非PKI電子署名ソリューションを提供していました。PKIによる電子署名は政府系からの要求はあるものの、それ以外は特に要求はないとのことでした。

このクラウドEXPO2014を視察して感じたのは、米国でのクラウドは従来のベンダー側が用意した至れり尽くせりのシステムをただ利用するのではなく、あくまで自己責任で自ら選択し構築、運用するものであるということところです。日本国内におけるどちらかというベンダー任せのシステム構築・運用とはまだまだ大きな隔りがあるように感じました。

運営面では、70%セミナー中心で展示は30%程度の比重でした。それは基調講演の間は、ブースを閉じ参加者全員に基調講演を聞くようにしていることからわかりました。展示



各社は規模の大小にかかわらず、ほとんどが1~2コマ程度で、壁面を設けずテント程度の造作物に机とPCを2~3台並べた極めてローコストな設営に徹底していました。セミナーを聴講した顧客や見込先とのコミュニケーションをとるための出展のようでした。

6月11日 PM 米国政府公文書館(NARA)ニューヨーク支局

NARAニューヨーク支局の担当エリアは、ニューヨーク州・ニュージャージー州の他、プエルトリコとバージンアイランド諸島を含みます。プエルトリコは異国



ですが元米国領土であったため米国にとっては52番目の州相当に扱われています。これら管轄地域の連邦政府機関が管理する公文書を対象に当館は、最終的に記録・保存し、閲覧に供しています。

利用者の目的は、研究・家系調査(出身ルーツ探し)・裁判の証拠調査など、さまざまな人が訪ねてくるということです。地価の関係から膨大な公文書の当地保存は不可能で、現在管理する公文書が約100千立方feetの内、8千立方feet(8%)しかニューヨーク支局には保存しておらず、大部分(92%)は、ペンシルベニア等の他の支局に預け保管しているとのことでした。また映画・写真・地図・絵画などの特別な保存環境を要する公文書は、メリーランドの本館書庫で保存されています。

ニューヨーク支局で検索し、必要な公文書が見つければ、通常は10営業日で取寄せることが可能です。資料のリサーチと閲覧は無料、但し複写サービスは有料です。紙出力代は閲覧室内のキヤノン製リーダープリンターで60セント/頁でした。

米国民でなくとも、14歳以上でパスポートがあれば誰でも利用でき、タイタニック沈没関連などは、多くの国から研究者がリサーチにやってくるそうです。

デジタル化の費用は、「先祖探しドットコム」等のパートナーシップを結んだ民間事業者の出資で家系図の電子化を行っています。ディビット・フォリオ長官は、予算乏しい中でもデジタル化に熱心に取り組んでいるので、や



がて成果が出るだろうと思われました。いくつか質問があったので聞いてみました。

Q1. 数年前から取り組んでいるデジタル化の状況は？

→確かに進めているが、それでも電子化比率は2～3%で、どうみても5%には届いていない。一つの要因としては紙原本の保存状態を改善してからでなければ、電子化に取り掛かれない点もある。

Q2. オバマ大統領覚書で、連邦政府が発出する公文書は電子文書と宣言されているが、実際の運用は？

→ポーネデジタル文書に移行している。しかしNARAでポーネデジタル公文書を記録し保存し続けるためには、紙の公文書保存とは全く異なるサイエンスに依存しなければならず、このサイエンスはまだ確立していない。もちろんオバマ大統領は今までのどの大統領よりも熱心にデジタル化を進めていることは間違いない。

Q3. 電子化のフォーマットについて決まりがあるのか？

→電子メール～PDF文書、さまざまなフォーマットがあるが、保存に関してはクラウドをどこまで利用するのかなど、電子データの長期保存には未解決な課題が残る。

閲覧室を見学させてもらおうと大画面PCが林立する片側にMFキャビネットとキヤノン製リーダープリンターが3台並べて供用されていました。

米国では国勢調査の個人情報記録は72年後に公開されることが法律で決まっています。

おそらく当時の平均年齢を参考に非公開期間を決定したと思われる。2011年までの情報はマイクロフィルムで、2012年以降は電子公開となったとのこと。



情報共有とセキュリティの両立

株式会社ニプロス こみや たかし
小宮 隆司

6月12日 AM ブルームバーグ本社



ブルームバーグ社Jim Nagahama氏の案内で本社を見学することができました。

ブルームバーグ社は、ロイター、ダウジョーンズなどの金融情報サービス業では後発となりますが、独自アプリケー

ションを用いた情報端末が評価され、急成長している会社です。ニュース番組でもよく名前がでてきたりします。

見学に際しては、受付でパスポート (ID) の提示をしたあと顔写真を撮影し入館証が作成され、セキュリティが高い印象を受けました。そのため社内も日本でよくみられるIDチェック式の扉で各部署が見えないように仕切られているのかと勝手に想像していましたが、オフィス内はガラス張りが中心で、会議室もガラス張りでの様子をうかがうことができました。



また、異なる部門の社員の情報交換の場としてカフェテリアが複数ありました。それらは企業コンセプトの1つで「透明性」の一貫とのことで、情報の共有化と事業アイデア創出に大いに貢献しているものと言えそうです。その一例として、大リーグのピッチャーの投球データを解析して提供するツールがあるそうですが、このツールはカフェテリアでの情報交換の中から生まれたものだそうです。また、金融情報サービスとしての石油タンカーの位置・ルート情報や航空地図解析



プレゼンルームにて

での石油備蓄の残量の分析情報などのユニークな発想もこの「透明性」のある環境の賜物ではないかと想像できます。さらにオフィスには、大きな水槽や近代美術のオブジェもあり、

一見するとただのインテリアですが、ビジネスにおけるアイデアなどの創造の一助となるべく用いられているように思いました。

独自アプリケーションも見ることができ、その操作性は軽快でシンプル、情報を迅速に収集しなければならない金融関係者にとっては非常に便利なツールとなっていました。ソフト開発に従事していますので、大いに参考になるアプリケーションでした。

またNYに立地しているというのもあり関連性の高い時事で、9.11の同時多発テロ直後のエピソードを聞くことができました。世界貿易センタービルが崩落し、その影響で当時近郊では深刻なオフィス不足があったそうです。そのため、ブルームバーグ社は自社オフィスの提供などのボランティア活動を行ったということです。創業者のマイケル・ブルームバーグ氏が熱心な慈善活動家ですので、会社もその精神が活かされているものと思われます。

6月12日 PM ノースショア大学病院

ノースショア大学病院Sonia Davidson氏（女性）の案内で病院での統合ヘルスシステムの運用について話を聞くことができました。ノースショア大学病院はニューヨーク州ロングアイランドに位置し、ニューヨークの中心地からはちょっと離れた郊外にあります。周辺は閑静な高級住宅地で、19もの関連施設の中心的な病院でした。システムを管理する情報管理部門は80名ものスタッフが交代で勤務していて、かなり大きな病院です。

統合ヘルスシステムは、実にさまざまな機能があり、システムの導入により患者の病歴や、検査結果などを共有化、またガイドラインにそった治療方針といった標準化医療に成功しています。

一方、運用についての課題もあり、課題の1つとして、ス



案内いただいたSonia Davidson氏、Collen Bieniek氏と一緒に

タッフがシステムを利用しないという点があるとのことでした。この問題を克服するためさまざまな工夫をされていて、デバイスの



ポータブル化をして、常にその場での利用を可能にし、またシステムの新機能などの導入時はグリーンシャツと呼ばれる実際にグリーンのシャツを着用したサポート要員を現場に3週間程度配置し、問題あれば即座に対応させてシステム利用率のアップを図っているとのことでした。このことは非常に興味深く参考となるものでした。

私の顧客でも導入時の説明、マニュアル、問い合わせを実施してもなかなか利用していただけない担当者もいたりします。やはり新しい機能はわからないと利用することが面倒になる方は万国共通で存在し、そのための対策を提案・実施していく必要を痛感しました。

ブルームバーグ社は会社コンセプトに沿った、オフィスや社風を作り上げることにより業務に貢献することに成功しています。

一方ノースショア大学病院では、システム導入の課題を克服することで、医療サービスの向上という成果を上げています。

ケースは違いますが、共に成果を上げるという目的に対してさまざまな工夫をしていました。今回の視察を経て、日々の業務を見つめ直す良い機会となりました。業務に追われ、本来の達成すべき成果という目的が蔑ろになる場面があったのではと反省しました。事例を参考にし、より成果結びつけられるように工夫を重ねることを大切にしたいと思います。

名門大学・世界的情報企業・最先端医療の現場からNYのいまを探る

6月24日、米国研修に参加いただいた皆様に再度お集まりいただき、研修旅行の感想・成果をうかがった。研修に参加された皆様の目に米国の現状はどう映っただろうか。



出席者 (順不同・敬称略)

株式会社アピックス	新川 由樹	富士ゼロックス株式会社	小島 俊一
株式会社アピックス (JIIMA理事)	河村 武敏	JIIMA標準化委員会委員長	木村 道弘
株式会社国際マイクロ写真工業社	榊 満壘	JIIMA専務理事	長濱 和彰
		司会 / IMナレッジコンテンツ委員会	山際 祥一

コロンビア大学における情報セキュリティと書籍・マイクロフィルムのデジタル化

山際 初日はコロンビア大学医療センターを訪問されたようですね。

木村 医療センターのITセキュリティについて説明していただきました。同センターは、コロンビア大学やコーネル大学など3大学の共同のセンターで、各大学の医師や看護師、セラピスト、事務職から牧師に至るまで2万数千人がこのセンターのシステムを利用しています。

山際 医療系のシステムというと、電子カルテの運用などを見てこられたのですか？



木村 道弘氏

木村 はい、3大学の共同のセンターですので、アクセスコントロールに工夫が凝らされていました。カルテ、医療データなどの文書はすべて、共通のポリシーのもとに機密レベルが設定され、医師、看護師、事務などの利用者の役割ごとに、



セキュリティのプレゼンテーションを聞く



どのレベルまでアクセスできるかが決められています。機密レベルは3～10未満で、これ以上細分化しても管理しきれないので、この範囲になったそうです。同センターはプライバシーに係る機微な情報を扱っていますので、利用者のアクセス状況を常時モニターしチェックしています。具体的には、過度なアクセス（日常のアクセス数を大幅に超過）、連続的なアクセス（医療記録番号の順にアクセス）、通常のパターンを外れたアクセス、時間外のアクセスで、このチェックをこの6、7年続けているとのこと。地元のプロ野球やアイスホッケーの著名な選手が患者として入院するので、特に神経を使っているみたいですね。

山際 コロンビア大学のバトラー図書館はどうでしたか？

小島 バトラー図書館は、コロンビア大学の中でも最も歴史的で美しい建物の中にあり、全米で最も多くの電子化された蔵書をもつ大学付属図書館です。同図書館には3つのデジタル化センターがあり、その一つを見学しました。センターでは、ほかの図書館と連携してデジタル化をしていますが、その原資は助成金頼みというのが実情です。また、この図書館では、サーチにヒットする確率を高くするために、研究者に自分でデジタル化した論文を図書館に預けることを推奨しています。著作権やコピーの問題はあるようですが。



小島 俊一氏

それからマイクロからデジタル化されたものを購入するスキームもあります。富士通とミノルタのスキャナが設置されており、マイクロフィルムのデジタル化は、300ページのPDF化に30分程度と言っていました。

木村 デジタルデータをOCRにかけて、全文検索できるような加工もしているそうです。せっきくのデータをよりよく活用しようということのようです。

河村 ラボのような集中スキャンセンターではなく、スキャナなどのインフラを研究者らに提供しているという位置づけですね。

山際 デジタル化されたものの長期保存についてはどうお考えでしたか？

小島 デジタル化は保存に課題がある一方、マイクロは長期保存の信頼性が高いことは承知しているとのこ

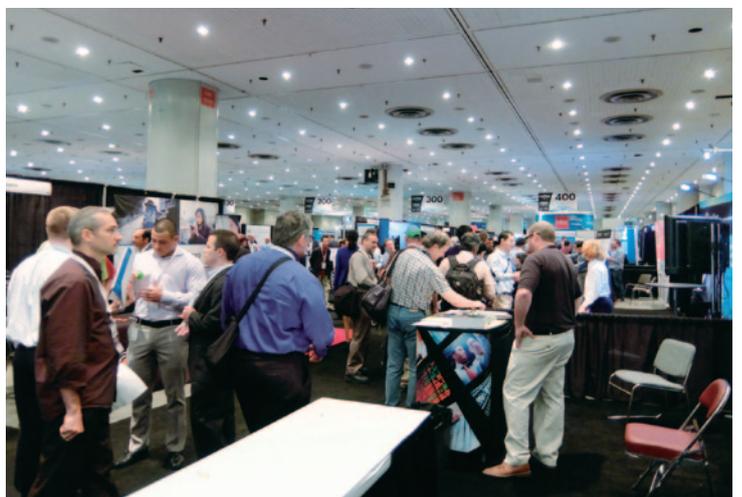
とですが、マイクロフィルム化は減り続けているのが現状のようです。どの媒体が一番使われるかという観点から、今は全米を通してマイクロフィルムのデジタル化を進めているようです。

これまでのクラウド、これからのクラウド

山際 さて、展示会「Cloud EXPO2014」はどうでしたか？

小島 「Cloud Odyssey: A Hero's Quest」と題するオラクル社の基調講演が興味深かったです。ほとんど同社の宣伝なのですが、これまでのクラウド、これからのクラウドについて特徴と事例が紹介されました。クラウドの利点は、速さ100倍、コスト半減、リスク100%減となることで、自らがサービスを行い・カタログ化され・弾力性があることから速さが増し、コストは資源共有・従量制・自動化により低減され、また、リスクは高可用・セキュリティ・コントロール（管理策）より低減されるという内容でした。

木村 展示の方は、80社くらいが出展しており、クラウド用プラットフォームや開発環境の提供、クラウドの運用管理ツール、クラウドサービスそのものの提供（マネージドサービスやバックアップ、Web会議など）、クラウドに付随する移行や課金API開発など各種サポート、クラウド用ソリューション提供に大別されていました。日本におけるクラウドの認識とは大きく異なり、あくまで自己責任で自ら選択して構築したり利用するものであるという感じですね。アメリカでは、ユーザー側に8割の技術者がいて設計などをする力があるということにもよるのでしょう。





長濱 和彰氏

長濱 運営面ではセミナーに注力しているようで、70%をセミナーに、展示は30%程度の比重に感じました。展示各社は規模の大小にかかわらず、ほとんどが1~2コマ程度で、ブースは壁面を設けずテント程度の造作物に机とPCを並べた程度の極めてローコストな設営に徹底して

いました。商談するスペースを別に設けて「セミナーを聴講した顧客や見込先とのコミュニケーションが取れれば良いブース」と割り切って出展しているのは米国の特性みたいですね。

オリジナルの迫力 — NARAニューヨーク支局にて

山際 榊さんは国立公文書館（NARA）ニューヨーク支局に行かれたのですか？

榊 第一印象は「意外と、小さいな…」でした。また、日本の国立公文書館にも仕事で行くのですが、似ているなとも思いました。もっと電子化が進んでいると思ったのですが、マイクロで閲覧や複写サービスを提供していました。ただ、レプリカではなくオリジナルを展示してあるのはびっくりしました。



榊 満壘氏

長濱 4年前に訪ねた時とは大きく変わっていました。マンハッタンは地価が高く膨大な公文書を保存することはできないので、90%以上は近隣の支局に預けているとのこと。また、映画・写真・地図・絵画などの特別な保存環境を要する公文書は、メリーランドの本館書庫で保存しているそうです。通常は10営業日で取寄せることができると言っていました。



マイクロのコピーは1枚60セント

NYでみた金融情報発信の最先端

山際 ブルームバーグ本社では何を見学されましたか？

河村 同社は金融情報発信の専門企業で、毎分250~300本のニュースをWeb/TV/FMラジオ等のマルチチャンネルで24時間提供しています。見学した本社にも各メディアのスタジオがあり本番放送をしていました。売上の7割がデスクトップソフトのライセンスで、1台につき最低月額20万円ということです。そして、2割が金融機関向けデータライセンス、残り1割がメディア広告です。たとえば衛星写真情報を利用して主要な石油備蓄基地のタンク1基ごとの残量を3D



河村 武敏氏

解析で把握し即時に集計したり、世界で運行中の全てのタンカー航路を追跡し、国別の石油需給状況を把握し予測情報として提供しています。また、アーカイブも充実しており、過去の出来事がたちどころにわかるようになっていました。

大学病院での電子カルテシステムの現状

山際 そのあとのノースショア大学病院はどうでしたか？

小島 ニューヨーク州ロングアイランドの高級住宅地を拠点にした19の病院施設、医師9千人、看護師1万人を擁する統合ヘルスケア資本体の中心的な病院です。オールスク립ト社のサンライズEHRを2009年から導入しており、今回はこの電子カルテの実際の運用について詳細を聞くことができました。



した。システムの導入に当たっては現場の抵抗がありがちなのですが、診療現場での入力を徹底するために、立ち上げ時期に緑色のシャツを着た「グリーンシャツ」とよばれるサポート要員を3週間ほど配置し、困ったらすぐにその場でサポート要員が対処していたというのが興味深かったです。システムを使ってもらうには「チェンジマネジメントが重要」といわれますが、そのことがよくわかりました。また、システムを作る側も使う人の仕事をよく理解することが重要だという説明もありました。

長濱 端末も入力しやすいようにいろいろなタイプを用意して、導入・定着に工夫を凝らしていましたね。

山際 オバマケアについてはどうでしたか？

小島 オバマケアの進捗に関しては、病院や病院内の各科によって様々なのですが、同病院は100%電子化が義務付けられている来年末までには、導入だけでなく使いこなすところまで実現できるという見通しでした。助成金を受けているので期限までに達成できなければ、ペナルティ（罰金）が科せられるので、必死にやりきらなければならないそうです。

長濱 日本ではベンダー任せになりがちですが、導入する側が積極的に自己主張しているのが印象的でした。また、医療情報の管理にもすごくお金と人をかけていることがわかりました。

小島 さきほど木村さんの話にあったように、アメリカではユーザー側に技術者がそろっていて主導権を握るといふもの大きいと思います。

木村 同病院の情報管理部門は、80名のスタッフが3交代で勤務しているそうです。

自由視察とさよならパーティ

山際 自由視察もありましたね。

新川 初めてのニューヨークだったので精力的に見て回りましたがバッテリーパークから自由の女神を眺めることができましたし、ウォール街も歩きました。またグラウンド・ゼロには、9.11の追悼施設メモリアル・ミュージアム作られていて犠牲者を偲ぶことができるように



新川 由樹氏



アイスホッケーチームの凱旋パレードをみるのができた

なっていました。ブランド品のアウトレットにも行きました。ブルックリンにある「ピーター・ルーガー」という老舗のステーキハウスで本場の熟成肉を堪能できました。

榊 私も初めてのニューヨークで張り切っていて、これぞニューヨークというところを見てきました。自由の女神も遠くから眺めるだけでは残念なので、フェリーに乗って間近で見ました。グラウンド・ゼロの追悼施設は確かに感動的でした。そのあと、SOHOで買い物をしたり、地下鉄に乗ってニューヨーク近代美術館(MoMA)に行きました。びっくりしたのは、作品に手が触れられるくらい近づくことができ写真もOKでした。フラッシュはNGでしたが…。

山際 さよならパーティは和食の店に行かれたようですね？

新川 マンハッタンにできた居酒屋でした。ほかのテーブルで誕生日の人がいたらしく、サプライズで和太鼓の演奏などがありました。料理はアメリカンテイストではなく日本風でした。現地の人にも上手に箸を使って食事していました。

長濱 お箸はアメリカではすごく一般的になっていますね。

まとめ：感想と要望

山際 最後に、研修の感想と次回への要望をお願いします。

新川 予定されていた視察先以外にも同業のデジタル印刷会社にも視察に行きました。いずれの場所でも大変勉強になりました。頭でイメージしていたものがきちんと具現化されていることもあり、刺激を受けました。今回のツアーへの要望としては、もう少し現場の見学ができればよかったです。

小島 いろんな会社の方と知り合えるというのは、この視察旅行の価値だと思います。ただ視察はもう少し少人数のグループに分けた方が行動もしやすいし、意見交換などもじつ



くりできると思いました。9・11のメモリアル・ミュージアムはお奨めです。「記憶をしっかり記録しておく」、「忘れない」という意思を感じました。写真などが飾られているほかに、犠牲者一人ひとりについて、家族写真や遺品などがデジタルアーカイブされていて大きな端末で閲覧することができました。

榊 普段見学したくても見られないところを手配していただけるのは、この視察旅行ならではのですね。できれば、視察先を事前にリクエストさせていただき、アレンジしてもらえるとありがたいです。

河村 JIIMAの理事としてまた会員として両方の立場から考えたのですが、AIIMのショーが2年前になくなり、企業視察に重点を置いたツアーになっていますので、例えばこれを見るためにどこそこへ行きますといった視察の目的を明確にすると良いでしょうね。企業視察の効果も価値も高まると思いますし、ツアーの質が高まります。あと、せっかく目的地がニューヨークでしたので、 Yankeesのホームでの試合が見られる日程だったらもっと参加者が増えたかもしれませんね(笑)。

山際 そうですね(笑) 本日はお忙しいところお集まりくださりありがとうございます。



司会/山際

その業務、コアビジネスへの負担 になっていませんか？

専門外な作業への人員・設備の調達、運用・管理は非効率で負担も多いものです。



餅は餅屋。
スペシャリストへの委託は、効率的で確実です。

イメージングソリューション

歴史的に貴重な材料をはじめ、行政、企業、学術機関の重要文書・技術資料など、形態によって最適なデジタル化をご提案致します。また、長期保存が必要な資料に対しては、マイクロフィルム化にも対応しています。

BPO

ビジネス・プロセス・アウトソーシング (BPO) は、企業の基幹業務を支える他部門を外部委託して、本業の基幹業務を集中強化しようというビジネスの形態です。中でも、文書情報管理部門のスペシャリストへの委託は、正解で合理的な運用を可能とします。

情報システム開発

デジタルデータ化することで最適な状態にし、それらの必要な画像情報をスムーズに検索や閲覧できるデータベースの構築をサポートします。

インフォマージュはコダックアラリスジャパンが扱うマイクロフィルム関連製品の国内総代理店です。



株式会社 インフォマージュ

〒104-0054 東京都中央区勝どき 2-18-1

TEL: 03-5546-0601 FAX: 03-5546-0610

Mail: mail@infomage.jp

<http://www.infomage.jp>

ISO9001:2008 認証取得 ISO/IEC27001:2005 認証取得



KONICA MINOLTA

Giving Shape to Ideas

省スペースと高性能を両立したデジタルフィルムスキャナー

マイクロフィルムスキャナー

SL1000

- 設置場所を選ばない軽量・小型設計
- レンズ交換が不要な6.8～54倍の超ロングズーム、電子ズームとの併用で105倍まで表示可能
- 最大600dpiの高解像度
- カラーマイクロフィルム画像の電子化が可能
- タッチパネルに対応した専用アプリケーションを標準装備



PCと共にデスクトップに設置可能なデジタルフィルムスキャナー。優れた再現力と対応力で、様々な形態のフィルムを鮮明に読み取り可能です。専用アプリケーション「SL-Touch」はタッチパネルディスプレイに対応し、マイクロフィルムのデジタル化をスムーズに行えます。

※写真はオプションを装着した状態です。

Lineup

他にも、高速・高画質なマイクロフィルムスキャナーを取り揃えております。

MS7000MKII
MS6000MKII



※写真はMS7000MKIIです。

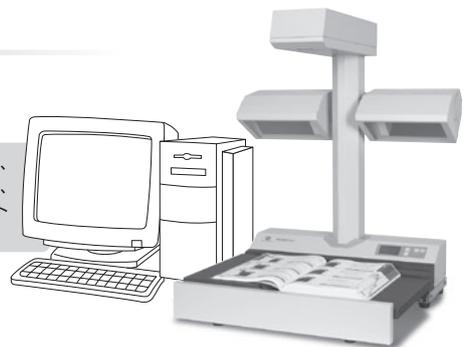
書籍原稿を鮮やかにデジタル化するフェイスアップスキャナー

ブックスキャナー

EPICWIN 5000CMKII

- A3サイズ対応、原稿上向きセット方式スキャナー
- フルカラー・グレー・モノクロ2値でスキャン可能
- 最大600dpiの高解像度
- ブックスキャンに適した各種デジタル処理技術を搭載
- 軽量化&小型化を実現

ブック補正機能により、書籍原稿の原稿曲がり、文字縮み補正、綴じ部分削除、指消し、枠消し、センタリングなどの機能で、書籍原稿やシート原稿を美しく再現することを可能にしました。



フルカラー・フェイスアップブックコピーシステム

BookPro 5000CMKII

貴重な文献や分厚い書籍を上向きのまま読み取り、原稿を傷めることなく、簡単・きれいにコピーできます。

※写真はオプションを装着した状態です。 ※コインバンダー対応可能。

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1丁目5番4号 コニカミノルタ日本橋ビル <http://bj.konicaminolta.jp>

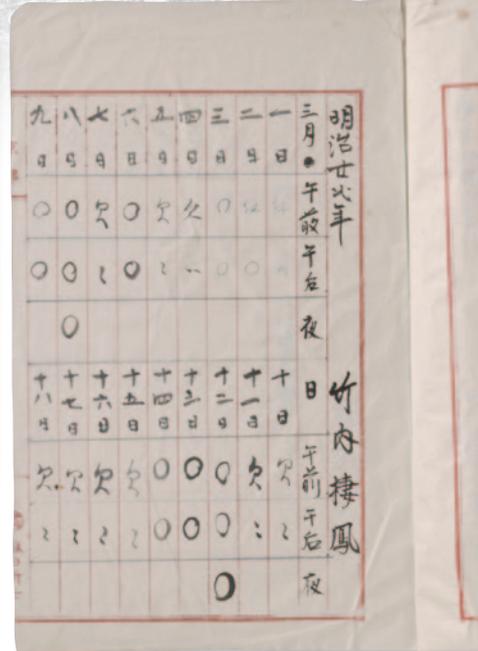
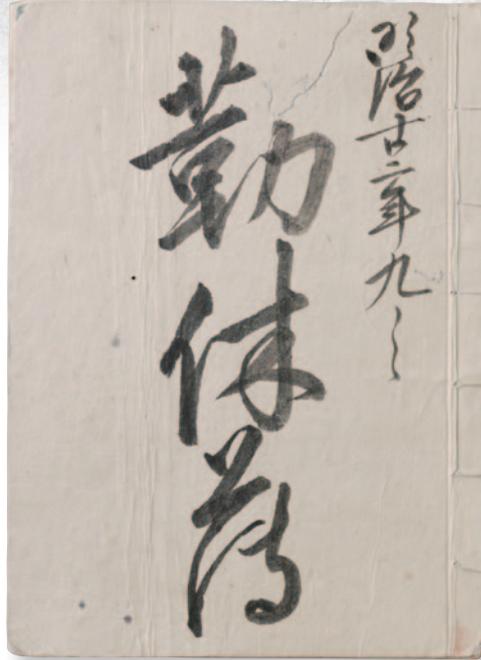
●商品に関するお問い合わせは ☎0120-805039 受付時間/9:00~12:00・13:00~17:00(土、日、祝日を除く)

高島屋史料館所蔵
勤休簿

当館の所蔵作品の内、約1,000点は「下絵」です。京都で創業した高島屋は、明治15年に「画工室」を設け、日本画家や工芸家に下絵を描かせ、海外向けにビロード友禅の壁掛けや屏風など独自の美術染織品を完成させ、万国博覧会に出品しました。後に貿易部を設立し、これら美術染織品を海外に輸出、高島屋の発展に大きく寄与することとなりました。

この「勤休簿」は明治22年から24年のもので、画家たちが下絵を描いていた「画工室」への出勤状況がわかる、いわば勤務表です。ここに名を連ねるのは、若き日の竹内栖鳳や都路華香ら。

第一回文化勲章を受章し、「東の大観、西の栖鳳」と呼ばれた京都画壇の巨匠竹内栖鳳が高島屋に勤務していたことを記す貴重な資料です。明治維新以降、低迷していた美術界や画家達の生活、高島屋の経営をも支えた美術家達とのつながりを具体的に示すものとして保存されています。



たけうちせいほう つしかこう



高島屋史料館

◆ わが館の特長

1970（昭和45）年、株式会社設立50年記念事業の一環として創設。所蔵品は美術品や呉服、染織品、ポスター・チラシや写真、創業期からの文書など多岐にわたり、約20,000点を収蔵しています。常設展示では、弊社歩みを写真パネルや古文書などで紹介しており、企画展示では、3ヶ月毎にテーマ別で所蔵美術品を展示しています。

◆ 所蔵品

紙文書関連	10,000点	写真・スライド	5,000点
マイクロフィルム	500点	画像データ*	15,000点

※所蔵品をデータ化したもの
現状公式では以下を所蔵総点数としています。
美術品 約5,000点（絵画・彫刻・書・美術染織品等）
その他 約15,000点（呉服・ポスター・人形・書籍・社内文書等）

<http://www.takashimaya.co.jp/archives/library/>
〒556-0005 大阪市浪速区日本橋3-5-25 高島屋東別館3階
TEL. 06-6632-9102 FAX. 06-6632-9195

■お宝文書投稿募集中!! 所蔵する貴重な文書・特長ある文書を貴館のご紹介と共に掲載します。ご連絡は編集部まで。

東北大学史料館所蔵

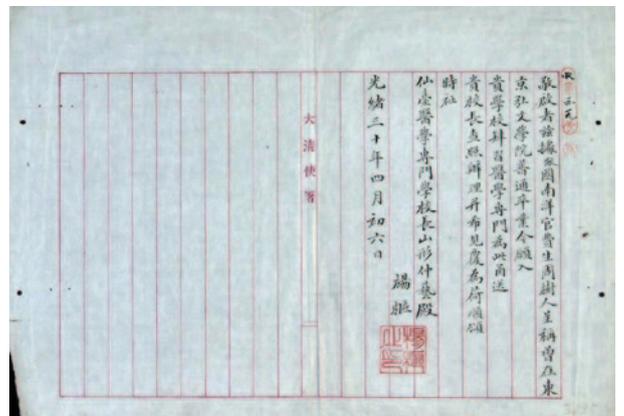
仙台医学専門学校文書

明治後期、近代医学の普及と共に、医師を目指す青年たちの数も年々膨らんでいきました。大学の医学部がまだわずかしかなかった頃、そうした青年たちの学舎となったのが、全国の主要都市に置かれた「医学専門学校」です。東北大学には、医学部前身校の資料として、明治20年から大正7年にかけての「仙台医学専門学校文書」が350点ほど保存され、東北大学史料館で一般公開されています。それは日課表や成績会議、医学生の学生生活にかかる通知や各方面との往復書類など多岐にわたり、明治期の医学校や医学生の実像を知る上で実に豊富な情報を提供し、また地方都市と学生との関係を知る上でも興味深いものです。すべてマイクロフィルムとしても保存されています。

近代中国を代表する作家・魯迅も、実はかつてこの医学校に学んだ医学生の1人でした。仙台医専文書のなかには、彼の入学願書や成績表、その他学業生活にかかる資料も多数含まれ、それは現代の東北大学と中国との交流を支えるアイテムにもなっています。



解体祭典記事（解剖用献体慰霊祭の記録）と日課表



魯迅の入学に関する清国公使館照会状

東北大学史料館



<http://www2.archives.tohoku.ac.jp>

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1

TEL. 022-217-5040 FAX. 022-217-4998

◆ わが館の特長

東北大学史料館は、東北大学の重要公文書や関係者の私文書等を歴史資料として保存・公開する「大学アーカイブズ」です。1924年に建てられた旧東北帝国大学附属図書館を再活用して活動を続けています。館内には参考文献も充実した閲覧室と、東北大学や「学都」仙台の歴史を紹介する展示室があります。所蔵資料の目録はホームページ上からダウンロードできます。

◆ 所蔵品

紙文書関連	公文書5200冊、刊行物13000冊、私文書150資料群
写真・スライド	10000点
マイクロフィルム	600点
画像データ	7000点

■お宝文書投稿募集中!! 所蔵する貴重な文書・特長ある文書を貴館のご紹介と共に掲載します。ご連絡は編集部まで。

Part3 : Disposal

—価値とリスクを勘案しながら文書を処分する—

JIIMA 標準化委員会 委員長 きむら みちひろ 木村 道弘

統合文書管理規格の連載も4回目となりました。今回は、Part3として規格化が計画されている保存文書の廃棄、移管、保存延長などの処分についてその方針を解説します。

Disposalとは

ディスポーザルは、文書の保存期間が終わった後に廃棄、移管、保存延長などの措置を行うことを指します。このこと自体は従来から行われていることです。TNA (The National Archives)¹から発行されている Disposal schedulingによるとDisposal (処分)、Retention (保持)、Disposition (処置)は基本的に同じ概念の異なる側面を言っているだけとなっています。

図1は統合文書管理におけるPart3: Disposalの位置付けです。

作成時宣告

伝統的な方法は、文書の保存期間が終わる直前に、個々の文書について歴史的、文化的な価値を評価 (アプレーザル² appraisal) し、廃棄、移管、保存延長などの処置を行ってきました。しかし、大量に発生し続ける電子文書に、今後ともこの方法を適用するのはあまりにも非現実的です。このことから、最近では、文書作成時に、保存期間と保存期間が終わった後の処分方法まで決めてしまおうという流れにあります。保存期間が終わったときは、指定通り自動的に処分を行うことが可能になります。このようなやり方は作成時宣告 (Sentencing on creation) と呼ばれています。統合文書管理規格Part3は、この作成時宣告をベースに検討を進めようとしています。

アプレーザルの意味の拡張

作成時宣告では、これまで保存期間が終わる直前に行っていた、その文書を廃棄するか移管するかの判断を、文書作成時に行う必要があります。つまり、アプレーザルを前もって、文書作成時あるいは作成以前に行う必要があります。具体的なアプレーザルの方法は、Part3のScope外となる見通しですが、

1 The National Archives
<http://www.nationalarchives.gov.uk>

2 アプレーザルという言葉は一般に、骨董品などの鑑定や不動産の査定という意味で使われています。

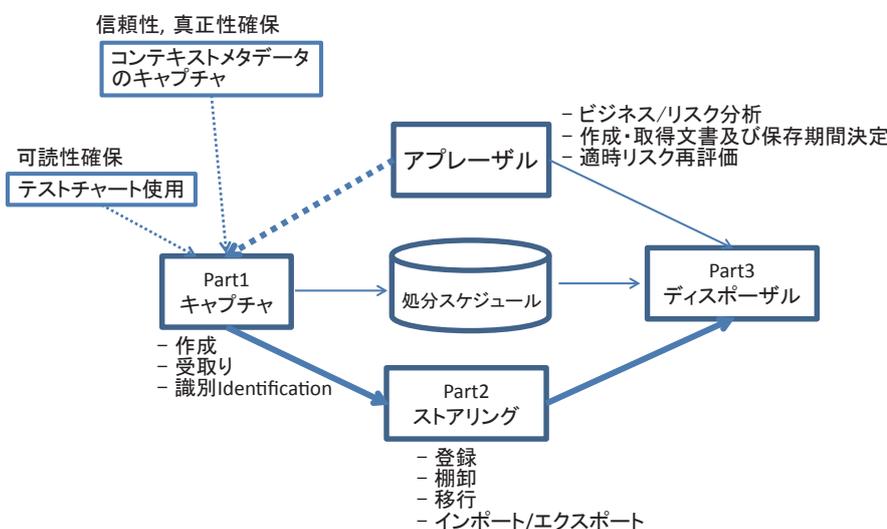


図1 統合文書管理におけるPart3の位置付け

何らかのガイドが必要だと思います。

現在改訂中のISO 15489 (Record management) では、アブレーザルに、「ビジネス価値とリスクを分析し、作成・取得が必要な文書とその保存期間を決定する」という意味を与えようとしています。

統合文書管理を俯瞰的に見ると、Part1における文書の作成、取得は、アブレーザルの結果に従って行われると読み替えることができます。最近の文書管理の風潮からは、リスクもあるが価値もある情報として、知財情報や顧客情報に加えて経緯文書もここに位置付けることができます。逆に、企業内での従業員の個人情報保持は欠かせませんが、価値は低くリスクは高いのでその取得は必要最小限に留める必要があります。また、当初は価値ある情報でも日が経つと価値が低下し、相対的にリスクだけが高くなるような情報は、早々に廃棄することが望まれます。

処分スケジュールと処分実施

図2はディスプレイの全体プロセス構成です。

処分スケジュールは、文書作成時に宣告する保存期間と保存期間終了後の処分行為を指します。業務分類や文書に対して一つ設定され、次のいずれかの処分行為を指定し、処分プロセスは、このスケジュールに従って処分を行います。

- ①永久保存
- ②保存期間の終わりにレビューして扱いを決める
- ③保存期間の終わりに移管（転送）する

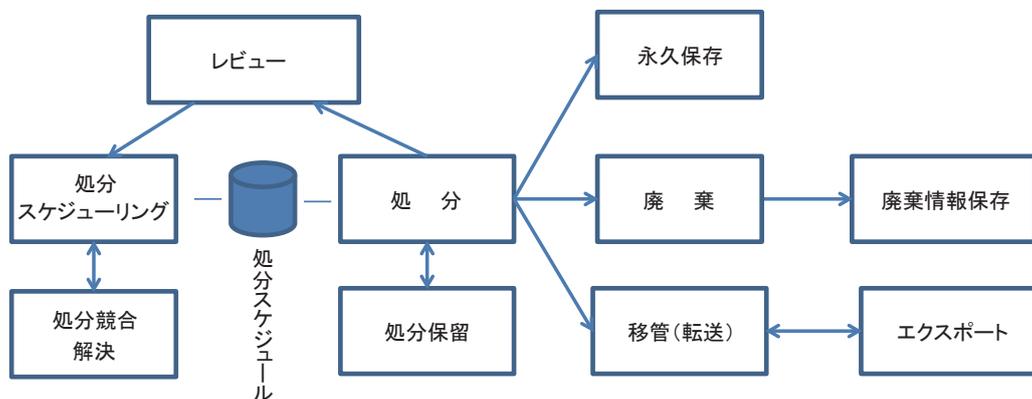


図2 ディスポーザルの全体プロセス構成

④保存期間の終わりに廃棄する

処分スケジュールリングプロセスの大きな役割の一つは、処分の競合（コンフリクト）の解決です。個々の記録が、複数の分類に属する場合は、処分の競合が発生する可能性があります。このため、処分の対立の許容を含め、手動でのユーザー介入や、重要度・優先度に関するなんらかのアルゴリズムの実行によって、処分の競合を解決する必要があります。

処分の実施に当たっては、処分行為を行う場合の許容時間として、確認期間を設ける必要があります。移管（転送）に関しては、2フェーズの確認期間を設けます。最初のフェーズは、移管（転送）先にエクスポートされ転送が成功裏に完了するまで、第2フェーズは、移管（転送）元での廃棄が完了するまでの期間となります。

実際問題としては、文書を作成したとき、その文書の重要性和保存期間を確信をもって設定できるとは限りません。保存期間に関する規則が途中で変わるかもしれません。処分行為として「保存期間の終わりにレビューして扱いを決める」を選択した場合は、レビューの結果に基づき、元の処分スケジュールに替わって新たな処分スケジュールが設定されることになります。

過去の証明

意図的な廃棄ではないことを示すには、ルールに従って適切な処分スケジュールの下で文書が適切に処分されたことを示す必要があります。過去の事実を証明する必要があります。

これは、文書が作成され、保存され、削除されたことを示す事実を、ログやメタデータとして保存することで実現できます。この過去の証明は、MoReq2ではスタブ（切り株）、MoReq2010では残留記録と呼んでいますが、広く認識されている名前はまだありません。

過去の証明として何を残すかは、ポリシーに依存します。少なくともコンテンツは削除され、不要なイベント履歴やメタデータも削除されます。

ちなみに、MoReq2のスタブでは、次のメタデータを残しています。

- 廃棄または移管（転送）した日付
- 分類コード
- タイトル
- 説明
- 廃棄または移管（転送）理由
- 移管（転送）先のリファレンス

e-Discovery対応

e-Discovery (Electronic Discovery) は、電子情報開示または電子証拠開示とも呼ばれており、米国での民事訴訟における電子的に保存された情報を対象とした証拠開示

(Discovery) 手続きをいいます。米国企業だけでなく、米国で事業を展開している日本企業であれば、米国の事業所や日本にある本社のデータセンターなども対象になります。開示の対象は、ファイル、電子メール、チャット、会計データ、CADデータなど訴訟で証拠となり得るものは全て含まれます。

訴訟の発生時点または訴訟の可能性が判明した時点で課せられる電子文書保存義務は、訴訟ホールド (Litigation Hold) と呼ばれ、それが解除 (Lift) されるまでは、該当文書を削除すると証拠隠滅行為とみなされます。したがって、訴訟ホールドが実施されている間は、その訴訟に関係する文書が廃棄処分されないように、処分を保留する必要があります。

処分保留は、正常な処分プロセスに割り込み、記録の廃棄を防止しますが、廃棄処分が既に開始され、その完了待ちの状態にある場合は、すでに廃棄されているものとして扱います。

おわりに

Part3: Disposalについては、検討の緒に就いたばかりです。本稿執筆時点では、国際的な合意形成を進めている途中であり、今後変更される可能性があります。末尾になりましたがこの点をお断りしておきます。

契約書などの企業文書資産の電子化に

重要文書出張電子化サービス

VitalDSS

「重要文書出張電子化サービス VitalDSS」は、契約書などの企業の重要文書資産を電子化して分散保管を可能にし、**BCP 対策**、**リスクマネジメント**を行うサービスです。

●VitalDSSの電子化サービスレベル

カラースキャン

文書情報管理士による電子化監督

目視確認後の電子署名

PAdES によるタイムスタンプ付与

●手間いらず、リスクいらず

出張電子化、フルサービス

●もっとも真正性の確保できる電子化

e-文書法要件レベルの仕様、カラースキャン、PAdES

●もっとも安全な電子化

デジタルID暗号化PDFを提供、PCに証明書必要

●すぐ実施できる価格

料金が明確でページ数、ファイル数だけで予算化可能



HYPER GEAR **APIX** 株式会社アピックス
*VitalDSSは、株式会社アピックスと株式会社ハイパーギアの2社の技術により実現しています。

詳細はココをクリック

VitalDSS

検索

お問い合わせは

vdss@apix.co.jp



JIIMAセミナー2014 アンケート報告 (東京)

セミナー委員会 すずき のりひこ
鈴木 憲彦

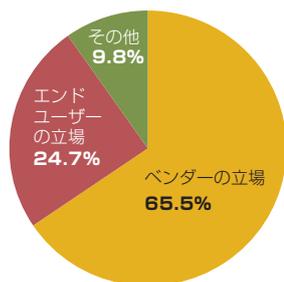
当委員会は、「クラウド・ビッグデータ時代の文書情報マネジメント～紙から電子の社会をめざして～」と題してJIIMAセミナー2014を5月28日東京、6月6日大阪で開催した。東京・大阪あわせて合計584名の参加を得て盛況に開催することができた。セミナー終了後、東京に参加された受講者を対象としたアンケートを実施し、以下の通り集計したのでここに報告する。

	セミナー参加者数	アンケート回答数	回答率 (%)
東京	479	296	61.8%

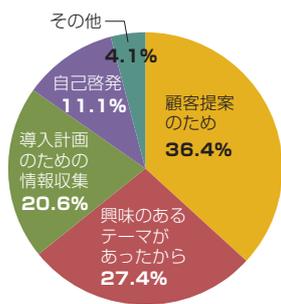
※なお、大阪開催では、105名が聴講した。

■受講者層

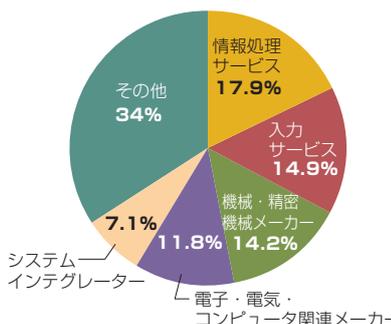
あなたの立場は？



セミナー参加の目的は？



貴方の業種は？

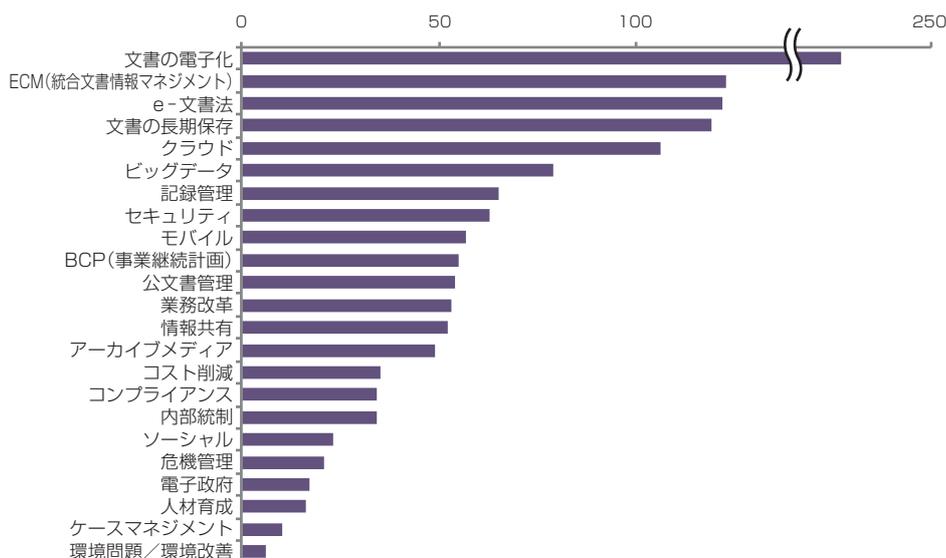


受講者はエンドユーザーに比べ、ベンダーが圧倒的に多かった。参加目的では「顧客提案のため」が多数占めることから、本セミナーのテーマや内容をどうビジネスチャンスにつなげるか、模索しているベンダーが多いことが覗える。

■受講者の関心

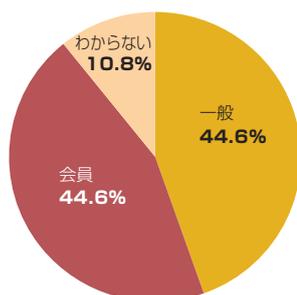
今興味のあるトピックスを教えてください。

「貴方の業種は？」(上段)で示されたように、受講者の属する業種の約1/3が情報処理サービスと入力サービスで、「興味あるトピックス」が文書の電子化、ECM、e-文書法と集計されたことから、こうしたサービスベンダーがe-文書対応を含めた電子化・統合文書管理を顧客提案に役立たせようと、関心を寄せていることがわかる。

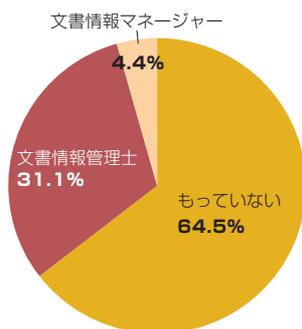


■JIIMAとの関連性

JIIMA会員ですか？



JIIMA認定の資格をお持ちですか？



JIIMAの会員・非会員の割合はほぼ変わらないが、JIIMA認定資格については「もっていない」が圧倒的に多い。専門的な知識やスキルを持っていないことも、文書情報マネジメントに強い関心を持っていることが覗える。ビジネスを行う上で有利となるJIIMAの認定資格を幅広く普及・啓発していきたい。

受講者層や関心のあるトピックスなど、全体の傾向は昨年とほぼ変わりがなかった。文書情報マネジメントに強い関心がありながらも、ユーザー、ベンダーともに文書管理・電子化導入推進に一步踏み切れないことも影響していると考えられる。JIIMAとして「紙から電子化の社会をめざす」その重要性やメリットを、より強くより広く啓発していくことが必要である。

Panasonic

ワンクラス上の 処理能力を実現!!



高処理能力ドキュメントスキャナー パナソニックから新登場!!

業界初^(注1)の機能

原稿をきちんと整える手間を軽減!

センサーとローラーによるメカニカルデスキュー機能搭載
(KV-S5076H)



クラス最速^(注2)
読み取り

カラー原稿

100枚/分
(200画/分)
(KV-S5076H)

パソコンスペックに依存しない読み取りスピード!

画像処理を本体内で行う専用LSIを搭載

読み取り作業前後の 手間を省力化!

「オートプレビュー」「オートリスキャン」機能搭載

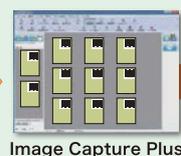
削除不可
ページ
画像つぶれ
カラーで
残したい



キャプチャーアプリ Image Capture Plus

文書や伝票に印刷されたバーコード情報を 認識してインデックス出力!

標準搭載のキャプチャーアプリ「Image Capture Plus」に
バーコード認識機能をプラス



バーコード情報や
OCR情報を
インデックス
ファイルで出力

00001	AAAAA
00002	AAAAA
...	...
XXXXX	XXXXX

スキャナー一括管理ツール (Site Central Manager Suite)

ネットワーク経由で、効率的な管理環境を提供

「管理・監視機能」「エラー通知機能」「アップデート機能」搭載

(注1) 業界初: 2013年12月17日現在、センサーとローラーの連動での原稿斜行補正機構を搭載した高速スキャナーとして。(注2) クラス最速: 電子情報技術産業協会定義のスキャナーカテゴリーのA3版以下/27万円~66万円の価格帯のスキャナーでA4横置きカラー原稿を300dpiで1分間に読み取る速度として。

パナソニック
ドキュメントスキャナー
ラインアップ



お問い合わせは パナソニック システムネットワークス株式会社 オフィスプロダクツ事業部 グローバルマーケティンググループ 国内マーケティングチーム
〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島4丁目1番62号

TEL: 092-477-1727 E-mail: scanner_support_japan@ml.jp.panasonic.com URL: <http://panasonic.biz/doc/scanner>

ワークグループスキャナー
KODAK SCANMATE i1150

コダック アラリス ジャパン(株)

直接的な顧客との取引、ビジネスプロセスの一環としてすぐにスキャンが必要な場合に対応するドキュメントスキャナ。

■特長

- 顧客に集中しやすいトランザクション。トランザクションモードでは、速度を60%上げてスタックの最初の10枚のドキュメントをより早くスキャンする。
- 読取り速度/トランザクションモード: 40枚/分(200dpiおよび300dpi)、通常: 最高25枚/分(200dpiおよび300dpi/A4カラー・モノクロ)。
- 紙詰まりや紙送りのミスの可能性のある音を聞くとスキャンを停止し、大切な

- ドキュメントを保護するインテリジェントドキュメントプロテクション機能付。
- 簡単なアイコンベースのカラーインタフェースとボタン一つのス마트タッチ機能を使って、クラウドやWebを含む適切な場所や人にデータをすぐに送信。
- バーコード値を読み取って、データをアプリケーションに送信。
- スキャンしたドキュメントの枚数、レイヤー状態の用紙の枚数をすぐに確認し、表示画面からカスタムテキストやアイコンを適用する。
- 生産的なKODAK Capture Pro ソフトウェア リミテッド エディションとCapture

Pro トライアル エディションを同梱。
■価格(税別) 49,000円
■お問い合わせ先
ドキュメント イメージング事業部
03-5577-1380
<http://graphics.kodak.com/docimaging/jp/ja/>



生産性と利便性を向上した大判プリンター
imagePROGRAF iPF785 / iPF780

キヤノン(株)
キヤノンマーケティングジャパン(株)

CAD / GIS (地理情報システム) 図面などの出力に適した大判インクジェットプリンター。A0ノビに対応した5色モデル。



iPF785

■特長

- CAD / GIS図面やポスター出力に求められる高速出力、高画質、低コストを実現。A1サイズを最速約21秒で高速出力。従来機種に比べ、約20%高速化。
- 図面出力ワークフローを効率化するソフトウェア「imagePROGRAF Direct Print & Share (DPS)」のダイレクトプリント機能でCAD図面ファイル形式HP-GL/2に対応、基幹システムにおける図面の大量印刷時の利便性を向上。
- 新開発の無料アプリ「imagePROGRAF Print Utility」でiPadから大判プリントを簡単出力。

- ポスター作成ソフトウェア「Poster Artist Lite」にクラウド共有機能を追加。
- iPF785は、従来機種から容量を増やした320GBの大容量HDDを搭載。高精細図面出力対応力を強化。

■価格(税別)
iPF780 398,000円
iPF785 648,000円
■お問い合わせ先
お客様相談センター
050-555-90063
<http://canon.jp/imageprograf>

iPhoneを高性能スキャナにするLEDライト
SnapLite

(株)PFU

誰でも気軽に簡単に、スキャナで取り込んだように、iPhoneできれいな撮影ができる新趣向の照明。

■特長

- 専用アプリ「SnapLite」を起動した状態でiPhoneを本体上部に置くと、自動的に最大の明るさで点灯、撮影モードに入る。本体の撮影ボタンに触れると撮影が行われる。
- 赤色のレーザーで撮影範囲をガイド。A4程度範囲の撮影が可能。
- 平面のみならず、厚みのある本、立体物も撮影でき、自動傾き補正や歪み補正もできる。

- トリミング、自動切出し、大きな用紙を2度に切り分けて撮影した場合の合成機能も装備。
- 撮影画像はiPhone内のカメラロールにJPEGで保存。
- シェアボタンでSNS、メールに連携、家族や知人と情報を共有できる。

*iPhone5、5s、5cで利用可能

■価格(税込)
SnapLite PD-SL01 12,800円
■お問い合わせ先
イメージングサービス&サポートセンター
050-3786-1665
E-mail snap@pfu.fujitsu.com



JIIMA 文書情報マネージャー 認定セミナーに48名の参加

7月11日(金)・12日(土)の両日、5回目となる認定セミナーが行われた。折しも台風8号が到来し、開催が危ぶまれたが、関東圏での影響が少なく予定どおり実施された。参加者のうち、台風の影響による交通機関の乱れから数名が欠席したものの、ほとんどの受講生が二日間を通して基礎から応用までを学習した。

牧野二郎JIIMA顧問弁護士は経営戦略としての文書管理を、JIIMA講師陣は文書情報マネジメントの基礎から管理の進め方、関連技術までを講義した。



文書管理の改善が経営にどのような影響を与えるかを学ぶことができるこの認定セミナーは、企業における文書管理の重要性と技術概念を体系的に学習できるだけでなく、実際の文書管理をワークショップで実践する。今回は何を保存し、何を廃棄するか、分類も含めて受講者共同で考察した。

災害等を経て文書管理の重要性が説かれる今なお、全社的な文書管理に着手できていない企業が多いと予測される。JIIMA文書情報マネージャー認定セミナーはそういった企業の皆さんにぜひ取得していただきたい認定資格のひとつだ。

次回は11月7日(金)・8日(土)、東京で開催する予定。

パナソニック 大容量記録装置を 今冬にも発売

業務用記録媒体で定評のあるパナソニック株式会社(会員No.1004、代表取締役社長・津賀一宏氏)がBD(ブルーレイディスク)の長期保存や省電力といった特長を活かし、SNS運営会社などでの需要を掘り起こしていると日経産

業新聞が伝えた。

同紙によると、パナソニックは昨年7月、BDを最大1080枚搭載し、108テラを保存できる記録製品を開発した。情報漏えいを防ぐため、一つのデータを12枚のBDに分けて保存できるため、研究所や資料館を中心に販売が伸びた。パナソニックはこれをさらに進化させ5000枚～7000枚を搭載する大容量の記録装置を今冬にも販売する予定だ。これはDVD10万枚に匹敵するデータが保存できる。

また将来的にはソニーと共同で1枚300ギガの次世代光ディスクを開発するとしている。

PFU ワークスタイル変革セミナーで 紙文書の動向を考察する

ワークスタイルの改善をあらゆる商品で提案しているPFUは7月9日(水)、ドキュメントファイリングでワークスタイルを変革させるというテーマでセミナーを開催した。

ワークスタイルを変える理由として、企業における高付加価値業務を充実させるという目的はもちろんだが、根幹には我が国の将来的な労働力減少がある。2010年に6632万人いた労働人口は2030年には楽観的にみても6255万人まで減るという試算がでている。生産性においても日本はOECD加盟国内で21位と低く、改善の余地が多分にある。また製造業での生産性は高いものの、サービス業では低い傾向にあると日本総研・太田康尚研究員は統計を分析した。



ペーパーレス・電子化、文書の一元管理はワークスタイルの変革のテーマのひとつ。紙は社外との接点業務に発生しやすく、B to Cにおいて電子化の遅れが目立つ。これを改善し、参照頻度が高い業務に電子化を利用すればメリットが大き

く、人的資源を有効活用できると解説した。

JIIMA 経営強化、スキルアップ 講座を続々開催

JIIMA事務局は本年度より、会員・一般に向けた企業経営強化のための講座、教養・スキルアップの講座を各種開催する。蓄積されたJIIMAナレッジ、文書管理・経営・事業に役立つ最新情報をJIIMA委員会・関係者・有識者から提供する。

すでに6月には経済産業省による「生産性向上設備投資促進税制説明会」が行われ、中小企業の経営・総務従事者が参加した。

今後の予定としては「インターシップ採用で優秀人材確保するポイント」、「地公体へのインフラ整備提案書・仕様書頒布説明会」、「電帳法第10条電子取引解説書頒布説明会」と続々計画されており、JIIMA市場調査結果も「2014年度エンドユーザー版」として報告する予定だ。

開催日は順次整い次第、メルマガ・ホームページで案内される。

ニチマイ 第11回アーカイブレコー ディングセミナーを開催

株式会社ニチマイ(会員No.3、代表取締役・廣岡潤氏)は7月25日(金)、富士フィルム本社(Tokyo Midtown)にて恒例となったアーカイブレコーディングセミナーを富士フィルム株式会社、ムサシ株式会社の協賛を得て主催した。



基調講演はF & F international 代表取締役・滝川由美子氏を招いた「業務改善と組織存続に導く情報管理」。コンサルタントとして数多くの経験から導かれた情報管理における計画や取り組みなどについて講演された。また、事例紹介として国土交通省航空局 総務課 登録係長・



阿部和哉氏には「事例:20,000冊のファイルと戦う!~国有財産取得書類の情報管理改善に向けたコンサルティング~」と題した発注側から見た情報管理の問題点、コンサルティングの効果などの事例をお話いただいた。

また、富士フィルムからLTOバックアップサービス「d:ternity」の紹介、ニチマイからはペーパーレスを視野に入れた業務効率化について講演があった。参加者人数70名。

富士ゼロックス 診療記録の二次利用を効率化する新システムを提供

富士ゼロックス株式会社(会員No.19、代表取締役社長・山本忠人氏)は、病院が紙や電子で保管する診療記録の二次利用を効率化するシステムを開発、岡山県にある津山中央病院(財団法人津山慈風会津山中央病院)へ導入した。

これまで既存の文書から必要なデータを抽出するには、手作業で目視や確認、集計するといった人的加工が必要だったが、本システムは原本性を担保して集中管理する「Apeos PEMaster ProRecord Medical」から必要な部分を取り出しデータベース化、二次利用できる。これによりたとえば、手書きの間診票から情報の一部を抽出、別システムと紐づけることで別途参照する手間を省けるようになる。

問診票からの情報抽出は津山中央病院診療録管理室では実証済み。今後はこれらをデータベース化、電子カルテと紐づけたり、科ごとの記録から必要情報を抽出し活用するシステムを検討し、今秋までには稼働開始するとしている。

KIU夏季研修会・納涼会を開催

関東イメージ情報業連合会(会長井上信男氏)は7月29日、東京・神田紺屋町で約30名の営業系会員メンバーを集めて、研修会と納涼会を開催した。

研修テーマは「マイクロアーカイブ再認識の動向(海外市場を含め)」。講師はコダックアラリス・ジャパンの楢林幸一氏、アシストは同社の菅賀明江氏が務め、

記録メディアとして昨今、導入が増えつつあるマイクロメディアの国内外動向を解説した。

2時間に及ぶ研修後には納涼会が行われ、活発に情報交換が行われた。



各社ニュース

移転のお知らせ

コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社(会員No.569、代表取締役社長・和田幹二氏)は8月18日(月)より、本社を下記に移転した。

〒105-0023 東京都港区芝浦1-1-1 浜松町ビルディング(総合受付26F)
TEL 03-6311-9001(代表)

人事のご案内(敬称略)

関東複写センター協同組合(東京都文京区)は6月19日開催の第41期通常総会ならびに理事会で任期満了による役員改選を行い、次期役員を下記の通り決定した。

理事長 齋藤隆正(ワイシー・ドキュメント)
副理事長 朝香雅文(エフ・アイ・エス)
副理事長 細井 武(亜細亜工業写真)
専務理事 森迫隆正(国際写真)
理事 米田和秀(日本工業社)
理事 亀田真司(チヨダクレス)
理事 池谷正俊(コーエスト)
理事 後藤 眞(ヤエス)
理事 柴田昌彦(ブックセンターリクエスト)
理事 國井洋一(ジェー・イー・シー)
理事 越山健男(青山プリント工業)
理事 石毛健雄(丸石)
理事 井 寛明(アイワ)
理事(新任) 早坂 淳(ケーヨー)
理事(新任) 平澤健一(芝浦研究所)

富士フィルム株式会社(会員No.2)
代表取締役会長CEO 古森重隆

代表取締役社長COO 中嶋成博
取締役 玉井光一
取締役 戸田雄三
取締役 高橋 通
取締役 石川隆利
取締役 御林慶司
取締役 榎野克美
取締役 助野健児
取締役 古屋和彦
取締役 浅見正弘
取締役 田中弘志
取締役(新任) 柴田徳夫

富士ゼロックス株式会社(会員No.19)
代表取締役社長 山本忠人
代表取締役 吉田晴彦
取締役 藤原 仁
取締役 栗原 博
取締役 柳川勝彦
取締役(新任) 徐 正剛
取締役(新任) 山田 透
取締役 古森重隆
取締役 中嶋成博
取締役 アーシュラ・エム・バーンズ
取締役 ジェイムス・エイ・ファイアストーン
取締役 カジミアーズ・ジェイ・ハーショルド

なお、取締役常務執行役員でJIIMA副理事長の勝丸泰志氏は6月17日付で富士ゼロックスシステムサービス株式会社代表取締役社長に就任。

株式会社ジェイエスキューブ(会員No.503)
代表取締役社長 岩崎孝史
取締役 今村眞二
取締役 尾崎修史
取締役 大吉哲弘
取締役(非常勤) 栗原 潔

株式会社エヌ・ティ・ティ・ソルコ(会員No.989)
代表取締役社長 武藤弘和
常務取締役 石田良夫
取締役 牧野 博
取締役 佐々田法男
取締役(新任) 藤井利昭
取締役(新任) 森下 徹
取締役(非常勤) 宇都宮祐子
取締役(非常勤) 谷口博俊
取締役(新任・非常勤) 深澤 充

第54期 第2回 理事会報告

開催日時 平成26年7月16日(水) 16:00～17:45
開催場所 JIIMA大会議室
出席役員 高橋理事長、廣岡理事、内藤理事、河村理事、
(敬称略) 辻理事、岡本理事、清水理事、吉尾理事、本田
理事、中村理事、望月理事、野村理事、長濱専
務理事、桂林執行理事、村田執行理事、長井監事

1. 審議事項

1) 第54期 6月までの事業遂行概況について

【執行状況報告】

- (1)議長より、「今期は公益法人として1年間の本格的な活動を行う本決算初年度であり、なんとか黒字化を目指して、事業遂行に努めているところです。幸い今のところ、5月28日東京・大手町での春セミナーと総会懇親会、及び6月6日大阪セミナー(関西イメージ情報業連合会と共催)、6月9日～6月15日米国NYC視察研修、6月20日・21日受験セミナー、いずれも概ね予算通りの事業遂行を行う事が出来ました。また7月～8月にかけて、新会費制度による年会費の請求を申し上げますので、維持会員の皆様へのご説明について、よろしくお願ひ申し上げます」との状況報告が行われた。
- (2)続いて専務理事より、第54期6月までの事業遂行状況が報告された。
- (3)その他の質疑は特になく、全員異議なく承認した。

2) 理事相当職「JIIMA執行理事」の提案について

- (1)議長より、「公益法人の役員選任は総会議決に限定されていますが、実際の協会運営においては、
 - ①JIIMAの活動範囲やテーマの拡大に伴って委員会やプロジェクトが増加し、全委員会・プロジェクトに担当を分担して頂くには、理事メンバーが不足。
 - ②また会員会社の代表として就任して頂いていた理事が関係会社へ移籍され、会員会社からの理事が空白となってしまうケース。
 - ③さらに担当事業や管掌範囲の拡大により理事会への出席が恒常的に困難となった場合、など対応する必要があります。このため理事相当の執行権限を持つが、理事会での議決権は持たない「JIIMA執行理事」を新たに設け、理事会機能の強化を図りたい」との提案理由が説明された。
- (2)続いて専務理事より、「JIIMA執行理事 規程(案)」が説明された。
- (3)議長より質疑を問うも特になく、第2号議案「理事相当職「JIIMA執行理事」の提案について」承認の議決

を求めたところ、全員異議なく承認した。

3) 第54期JIIMA執行理事として2名推薦の件

- (1)議長より、「JIIMA執行理事」として、推薦提案したいとして、以下の2名と推薦理由が述べられた。

①桂林 浩氏 富士ゼロックス株式会社 SS開発本部 第一SPF開発センター長

勝丸副理事長が富士ゼロックスシステムサービス株式会社(会員No.589)代表取締役社長に就任され(副理事長継続)たため、富士ゼロックス株式会社のJIIMAに対する代表者に就任された桂林氏を執行理事に推薦。

②村田一則氏 株式会社ムサシ 東京第一支店情報受託加工・機材システム営業部長

佐々木理事(ムサシ常務)が、第一営業本部長と東京第一支店長を兼務され、理事会への出席が恒常的に難しいため、今まで代理参加されていた村田氏を執行理事に推薦。

- (2)議長より質疑を問うも特になく、全員異議なく承認した。
- (3)桂林新執行理事と、村田新執行理事から、それぞれ挨拶が行われた。

4) 第54期担当理事・委員長・副委員長について

議長より、別途配布された「第54期JIIMA組織」に基づいて、各委員会やワーキンググループ、プロジェクトの担当理事・委員長・副委員長が説明された。

※54期JIIMA組織図はJIIMAホームページwww.jiima.or.jp「JIIMAについて—組織図」で閲覧できる。

5) 認証審査委員会の組織と運営に関する規程 提案について

- (1)議長より、「今期から望月担当理事のもとに製品認証事業をスタートするにあたって、認証審査委員会が審査の公平性・透明性を確保するために必要な『認証審査委員会の組織と運営に関する規程』案の審議をお願い致したい」との提案理由が説明された。
- (2)続いて専務理事より、「この規程案は①公益認定等委員会が定めた『検査検定』チェックポイントに対応する内部規程として立案した事、②委員会の構成は中立系の学識経験者や有識者、コンテンツ制作の受託加工サイド、製造開発系サイドの3系統の委員から構成したい事、③委員長・副委員長は中立系委員の中から、担当理事が推薦し理事会の決議を経て、理事長が指名する事、等を主な骨子とする」との内容主旨説明が行われた。
- (3)その他の質疑はなく、全員異議なく承認した。

6) アーカイブ用光ディスク製品認証制度に関する基本規程提案について

- (1)議長より、「8月末目標で、アーカイブ用光ディスク製

品認証事業の立上げ準備を望月理事にお願いしている。光ディスク製品認証を実施するための基本規程案について成案したので審議をお願いしたい」との提案理由が説明された。

(2)続いて認証審査委員会担当の望月理事より、「この基本規程は『アーカイブ用光ディスク製品』の認証を行うための最上位の期本規定であり、この基本規程の下に認証業務を行うために必要な約15本に及ぶ委員会内規則類や契約案を詰めているところである。本日の理事会でこの基本規程が承認されれば、付随する規則類は委員会が審議立案して、担当理事の承認を得て実施できるスキームとしたい」と発言し、内容主旨説明が行われた。

(3)審議の結果、一部修正については理事長と望月理事に一任することとし、全員異議なく承認した。

7) 新規会員獲得キャンペーン 提案の件

議長より、「JIIMAの継続的発展と会費値上げに伴う退会に備えて、JIIMA正会員を対象とする、『新規会員獲得キャンペーン』を今期末まで実施致したい」との提案理由が説明され全員異議なく承認した。

8) 事業系委員会充実のため役員会社から率先して委員参加をお願い致したき件

議長より、「普及啓発系委員会と人材育成系委員会に、委員要員の不足が顕著になっております。JIIMA活動の充実にはナレッジ系委員会と上記の事業系委員会が車の両輪となって活動して頂くことが不可欠であり、役員会社から率先して1名以上の委員参加をお願い申し上げたい」との主旨説明が行われ、全員異議なく承認した。

9) JIIMA会員入退会審査の件

(1)退会申請

西日本マイクロ株式会社（倉敷市）

オービス株式会社（東京都）

以上、議長からの審議依頼事項については、全て異議なく承認された。

2. 理事会報告

1) 「いのちとくらしを守るインフラ充実」政策提言プロジェクト進行状況（理事長・専務理事）

「地方公共団体へトップダウンで、基本計画に竣工図書や点検記録の記録と保存を織込んでもらうために、ヒアリングシートを配布して先行モデル作りをアプローチ中であり、各県単位で国交省と地公体による『道路メンテナンス会議』もスタートしており、重要性は認識されつつある」との概要が報告された。

2) 会員の経営強化やスキルアップに繋がるミニ講座 開催の件（専務理事）

6/26 生産性向上設備投資促進税制 説明会
経済産業省

[以降9月までの予定（開催日未定）]

インターシップ採用で優秀人材確保するポイント
講演者交渉中

地公体へのインフラ整備提案書、仕様書 頒布説明会
久田・長濱

2014年度 エンドユーザー動向調査報告会
日経リサーチ・長濱

電帳法第10条 電子取引解説書 頒布説明会
法務委員会

3) 米国視察研修報告(専務理事)

6月9日～15日まで参加者22名+JIIMA 2名でニューヨークの5施設とクラウドEXPO2014春を視察した件の報告は、機関誌月刊IM 9月号に掲載する趣旨の報告が行われた。

4) 第8回ベストプラクティス賞 選考結果（専務理事）

『第8回ベストプラクティス賞選考委員会』を開催した結果、委員全員が基準点以上の評価をした富士ゼロックス推薦の「古野電機一帳票の電子化」への授賞が決定したと報告された。

5) eドキュメントJAPAN2014 ショウ出展要請状況（辻理事）

ショウの出展締め切りを7月25日まで延長するので、役員各社の参加をお願いしたいと要請された。

6) eドキュメントフォーラム2014状況（専務理事）

特に初日のスポンサーセミナーが決まっていないので、役員各社の参加をお願いしたい、と要請された。



7月初旬に娘ファミリーが住んでいる沖縄へ、家内、次女と一緒に4泊5日の小旅行に出掛けました。当初の予定では、内1泊2日の予定で慶良間諸島の渡嘉敷島にペンションを借りて南国気分を満喫するつもりでございました。ところが残念ながら、7月初旬には珍しく台風(8号)が発生し、渡嘉敷島行きはキャンセルせざるを得ない状況になりました。今回の台風は史上最強クラスとのことで、1日半ものあいだ娘の家に缶詰状態でしたが、台風の観察と孫との遊びで退屈せずに過ごすことが出来ました。この台風は、今まで経験したことがない暴風雨で、あわせて雷も発生し特別警戒警報や避難勧告が発せられた地区も今まで以上に多かったです。沖縄では特に風が強く、ドアを開けるな、どうしても開けなければならない場合は、肩で押せと言われていたそうです。毎年、風の反動で手指が挟まれて切断される事故も起きるとか。

台風が過ぎた後でも、台風一過と言う感覚がなく、次の日も雨や曇りで湿度も非常に高い状態が続き大変な思いもしましたが、台風発生前は本島での海辺や観光を十分に堪能することができ、満足いく家族旅行でした。

この後記が出る頃は、本格的な台風シーズンが到来しているかもしれませんが、事故や被害が最小限に止まっていることを祈って筆を置きます。

(小長谷武敏)

サッカーのワールドカップブラジル大会がドイツの優勝で幕を下ろした。南米で行われた大会での欧州勢の優勝は初めてで、ドイツは24

年ぶり4度目の優勝を飾った。前評判も高かったが、決勝トーナメントではフランス、ブラジル、アルゼンチンといった強豪国(W杯で優勝経験のある国)を破って栄冠を手に入れた。

誰もが驚いた試合はブラジル戦ではないだろうか。今大会のホスト国であり、誰もが知るサッカー大国であるブラジル相手に7対1の大差で準決勝を勝ち抜いた。ブラジルはエースの負傷、キャプテンの累積警告などで柱を欠いての試合となったが、そんな事が理由で敗ける国ではないし、やはりドイツの力が上回っていた結果だろう。

ヨーロッパのサッカー大国ドイツが過去3大会2位、3位に甘んじていた鬱憤を晴らした見ごたえのある大会であったと思う。

一方、我々の日本代表は高い目標を掲げて今大会に挑んだが予選リーグで敗北を期した。しかし何も悲観することはないと思う。4年後のロシア大会を目指しアジア予選を勝ち抜くために、また頑張ってもらいたい。その繰り返しだが、いつの日か栄冠をつかみ取る唯一の道だから。

(栗田 直)

〈IMナレッジコンテンツ委員会委員〉

担 当 理 事 河村 武敏(アピックス)
 委 員 長 山際 祥一(マイクロテック)
 委 員 久永 茂人(国立国会図書館)
 栗田 直(ニチマイ)
 小長谷武敏(PFU)
 川村 忠士(ミウラ)
 長田 孝治(ロゴヴィスタ)
 長井 勉(横浜マイクロシステム)
 事 務 局 伝法谷 ひふみ

〈編集通信員〉

北村一三(JIIMA長野県会) 松浦英士朗(双光エシックス)
 関 雅夫(光楽堂) 森松久恵(国際マイクロ写真工業社)

月刊IM10月号予告

〔ケース・スタディ〕高島屋デジタルWEBアーカイブについて(仮)
 〔調査報告〕南海トラフ大地震被害想定地域における文書管理と
 減災・防災対策の現状
 認定マネージャー講評/認定者からのひと言 他

※本誌内容についてご意見・ご要望等ありましたらEメールdenpouya@jiima.or.jpまでお寄せ下さい。

〔月刊〕IM 9月号◎

2014年 第9号/平成26年8月25日発行 ©日本文書情報マネジメント協会 2014

発行人/長濱 和彰
 発行所/公益社団法人日本文書情報マネジメント協会(JIIMA)
 〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-1-3 和光ビル7階
 TEL (03) 5821-7351 FAX (03) 5821-7354
 JIIMA・JCプラザ/http://www.jiima.or.jp

編集・制作/日本印刷株式会社

印刷版(オンデマンド) 定価(1冊) 1,000円+消費税(送料別)
 印刷版(オンデマンド) 年間購読 12,000円+消費税(送料共)

印刷版(オンデマンド)のお申し込みはJIIMAホームページから。

ISSN0913-2708
 ISBN978-4-88961-145-8 C3002 ¥1000E

Journal of Image & Information Management (本誌に掲載された写真記事いっさいに関して、JIIMAの許可なく複製、転写することを禁ず)

FUJITSU

さらなる効率向上へ、 「分散入力」への挑戦。

確かな技術と高品質。
紙文書電子化のグローバルスタンダード、
FUJITSUイメージスキャナ「fiシリーズ」



NEW

クラス最高の基本性能を備えた
フラットベッド付モデル fi-7280



NEW

コストパフォーマンスを追求した
ADFスタンダードモデル fi-7160

fi Image Scanner
Series

PFU
a Fujitsu company

fiシリーズの詳しい情報は

fiシリーズ

検索

shaping tomorrow with you

社会とお客様の豊かな未来のために

eドキュメント JAPAN 2014

52nd 文書情報マネジメントショウ

2014.10.15 wed-17 fri 10:00-17:30

東京ビッグサイト 東展示ホール/会議棟

<http://www.e-document.jp/>

クラウド・ビッグデータ時代の 文書情報マネジメント

～紙から電子の社会をめざして～

- 主催/公益社団法人 日本文書情報マネジメント協会 ■共催/日経BP社 ■入場料/3,000円(税込)
■併催/eドキュメント フォーラム 事前登録者無料
■同時開催/ITpro EXPO 2014、Cloud Days Tokyo 2014秋、ビッグデータ EXPO 2014秋、スマートフォン&タブレット2014秋
Security 2014秋、モバイル&ソーシャル EXPO 2014、IoT Japan 2014

公益法人化にあわせて、展示会名称を「文書情報マネジメントショウ」に変更しました